

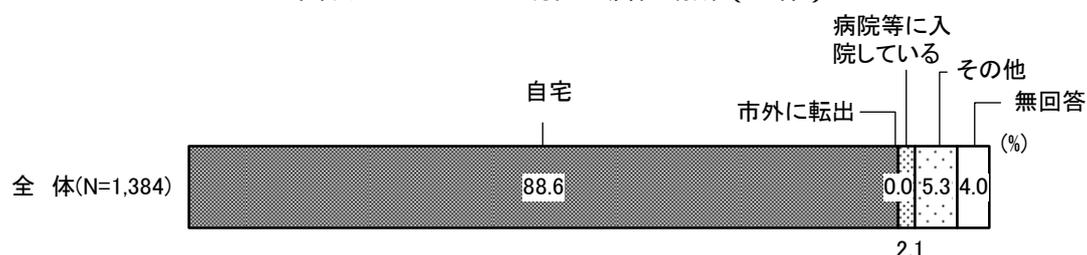
2 介護保険居宅サービス利用者調査

(1) 基本属性

現在の居住場所 (F 1)

現在の居住場所は、「自宅 (88.6%)」が最も多く、「病院等に入院している (2.1%)」が続いている (図表 2 - 1 - 1)。

図表 2 - 1 - 1 現在の居住場所 (全体)

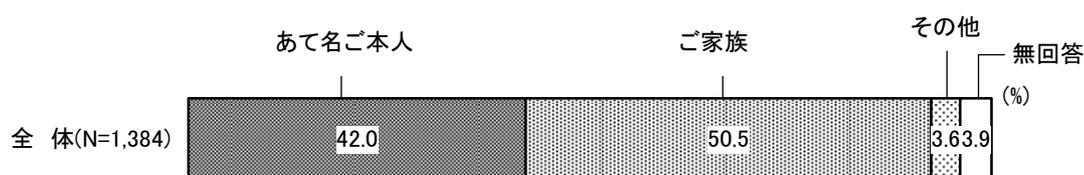


記入者 (F 2)

調査票に記入した人は、「ご家族 (50.5%)」が最も多く、「あて名ご本人 (42.0%)」が続いている (図表 2 - 1 - 2)。

前回調査と比べると家族回答者が増加している (前回は家族の回答 45.1%)。

図表 2 - 1 - 2 記入者 (全体)



性別 (F 3)

回答者の性別は、「女性 (71.5%)」が多く、「男性 (27.7%)」の 2.5 倍以上となっている (図表 2 - 1 - 3)。

図表 2 - 1 - 3 性別 (全体)



年齢（F4）

回答者の年齢は、「80～84歳（27.0%）」が最も多く、「85～89歳（25.2%）」、「75～79歳（17.1%）」が続いている。75歳以上の後期高齢者が89.6%を占める（図表2-1-4）。前回調査と比べると75歳以上の後期高齢者が増加している（前回は後期高齢者74.1%）。

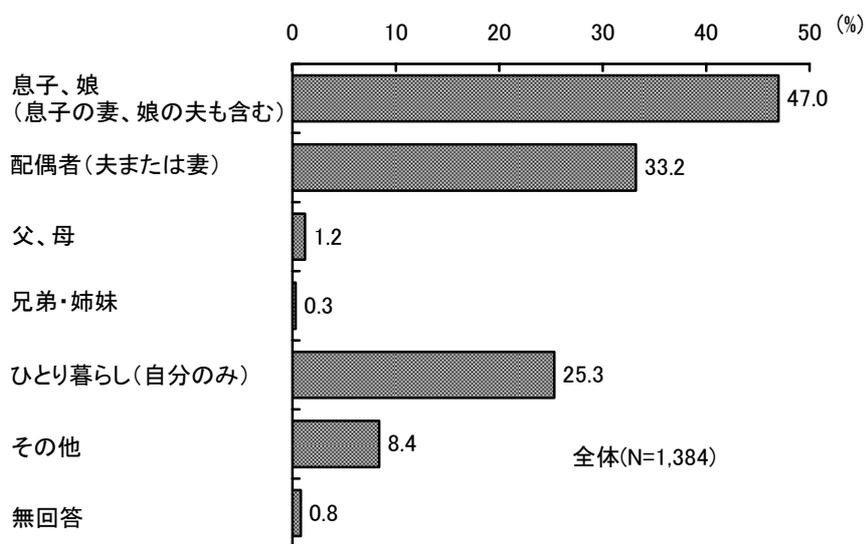
図表2-1-4 年齢（全体）



同居家族（F5）

同居家族は「息子、娘（息子の妻、娘の夫も含む）（47.0%）」が最も多く、次いで「配偶者（33.2%）」となっている。「ひとり暮らし（25.3%）」は2割を超えている（図表2-1-5）。

図表2-1-5 同居家族（全体：複数回答）



同居者の年齢 (F 5 - 1)

「ひとり暮らし(自分のみ)」以外の人に同居者の年齢をたずねた。「64歳以下の同居者がいる(43.1%)」の方が「同居者全員が65歳以上(30.3%)」より約1割多い(図表2-1-6)。

図表2-1-6 同居者の年齢
<同居者がいると回答した人> (全体)

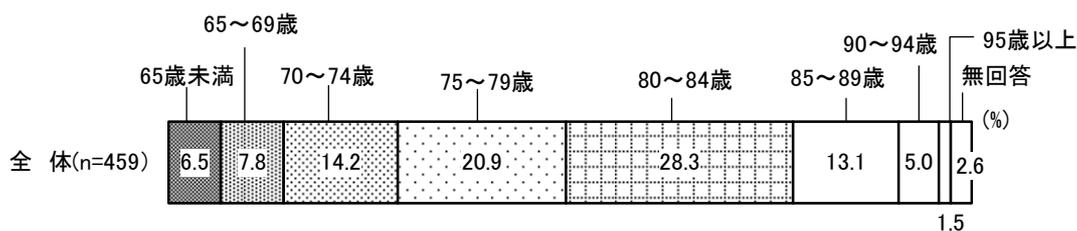


配偶者の年齢 (F 5 - 2)

「配偶者(夫または妻)」がいる場合、配偶者の年齢は、「80~84歳(28.3%)」が最も多く、「75~79歳(20.9%)」、「70~74歳(14.2%)」が続いている。75歳以上の後期高齢者が68.8%を占める(図表2-1-7)。

前回調査と比べると配偶者も後期高齢者が増加している(前回は配偶者が後期高齢者の回答者55.1%)。

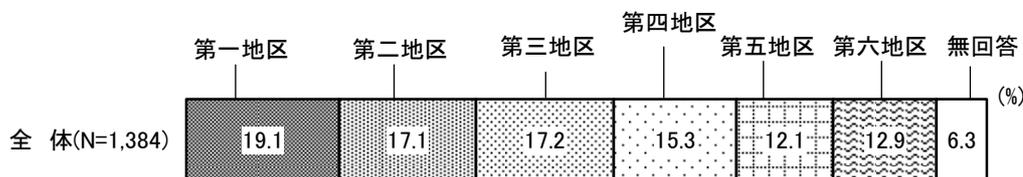
図表2-1-7 同居者の年齢
<配偶者がいると回答した人> (全体)



居住地域 (F 6)

居住地域は「第一地区(19.1%)」が最も多く、「第三地区(17.2%)」、「第二地区(17.1%)」、「第四地区(15.3%)」が続いている(図表2-1-8)。

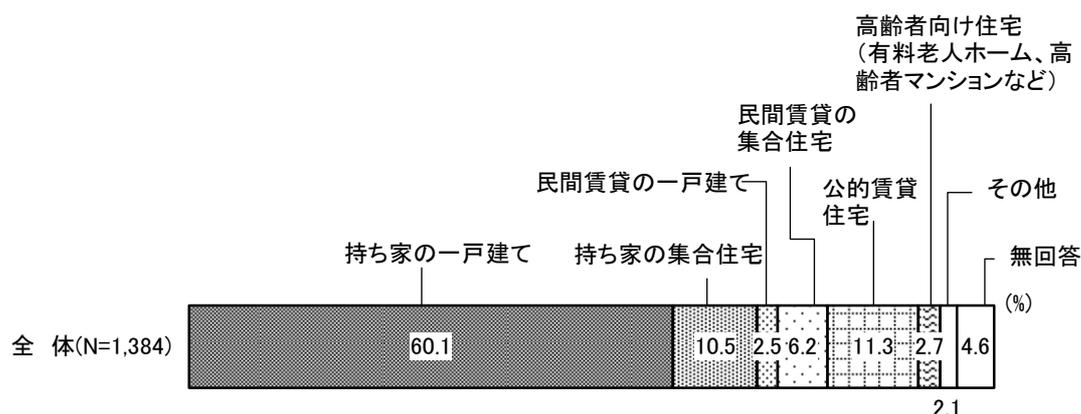
図表2-1-8 居住地域 (全体)



住宅の所有形態（F7）

住宅の所有形態は「持ち家の一戸建て（60.1%）」が最も多く、「公的賃貸住宅（11.3%）」、「持ち家の集合住宅（10.5%）」が続いている。「高齢者向け住宅（2.7%）」はごく少ない（図表2-1-9）。

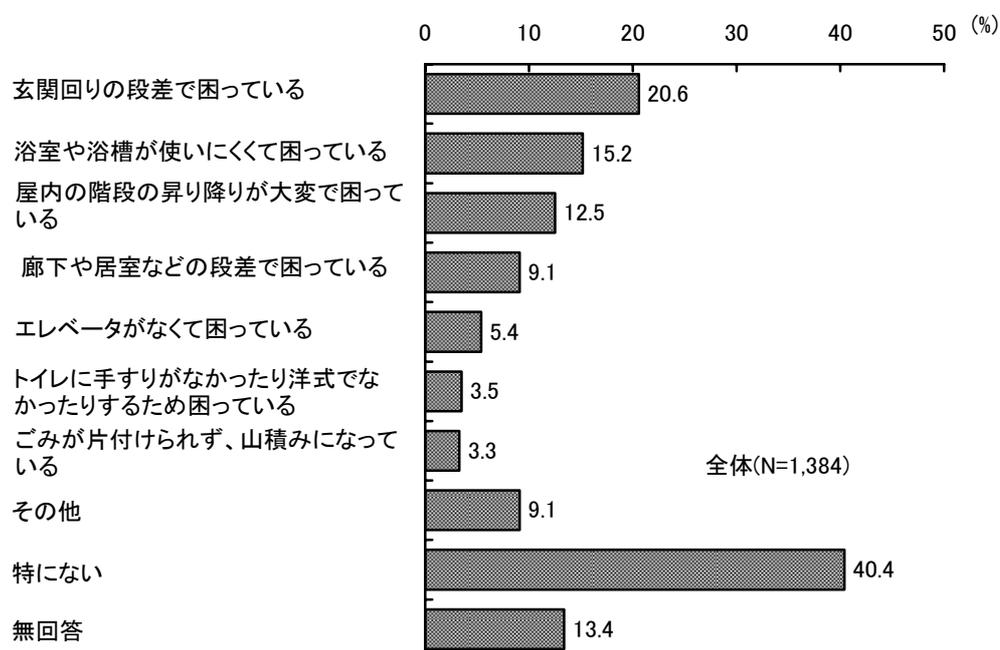
図表2-1-9 住宅の所有形態（全体）



住宅の問題点（F7-1）

住宅の問題点は「特にない（40.4%）」が最も多い。困っていることの内容は「玄関回りの段差で困っている（20.6%）」が最も多く、「浴室や浴槽が使いにくくて困っている（15.2%）」、「屋内の階段の昇り降りが大変で困っている（12.5%）」が続いている（図表2-1-10）。

図表2-1-10 住宅の問題点（全体：複数回答）

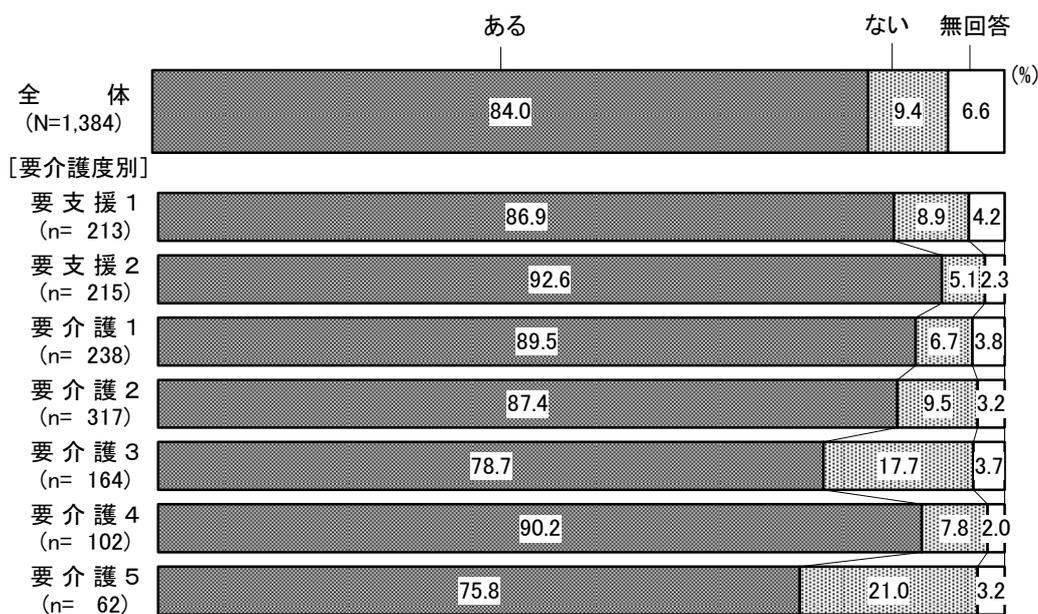


(2) 医療の状況

治療中の病気の有無(問1)

現在治療中の病気は、「ある(84.0%)」が多数を占める。要介護度別にみると、「要支援2」と要介護4で「ある」の割合が高い(図表2-2-1)。

図表2-2-1 治療中の病気の有無(全体、要介護度別)

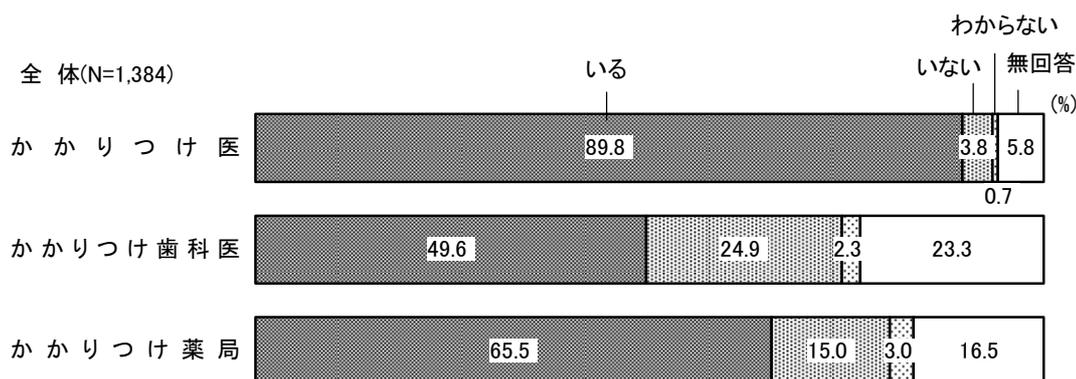


かかりつけ医・かかりつけ歯科医・かかりつけ薬局(問2)

かかりつけ医は、「いる(89.8%)」が約9割、かかりつけ歯科医は、「いる(49.6%)」が約5割、かかりつけ薬局は、「いる(65.5%)」が6割強である(図表2-2-2)。

前回調査と比べるとかかりつけ医(前回82.1%)、かかりつけ薬局(同59.7%)は増加しているが、かかりつけ歯科医(同51.8%)は減少している。

図表2-2-2 かかりつけ医等の有無(全体)



(3) 介護保険

要介護度（問3）

回答者の要介護度は、「要介護2（22.9%）」が最も多く、「要介護1（17.2%）」、「要支援2（15.5%）」、「要支援1（15.4%）」が続いている（図表2-3-1-1）。

介護度を3段階に分けてみると、「要支援」が30.9%、「軽度要介護（要介護1～2）」が40.1%、「重度要介護（要介護3～5）」が23.7%となっている（図表2-3-1-2）。

図表2-3-1-1 要介護度（全体）



図表2-3-1-2 要介護度（3段階）（全体）

	合計	要支援 1	軽度要介護 2	重度要介護 3	回答無
実人数	1384	428	555	328	73
比率	100.0%	30.9%	40.1%	23.7%	5.3%

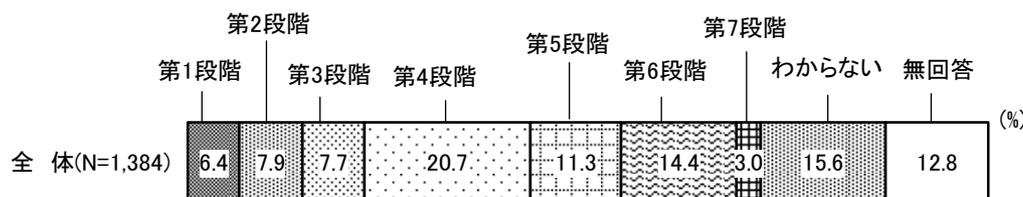
※1:要支援1、2 ※2:要介護1、2 ※3:要介護3、4、5

保険料段階（問4）

保険料段階は、「第4段階（20.7%）」が最も多く、「第6段階（14.4%）」、「第5段階（11.3%）」が続いている（図表2-3-2）。

前回調査では、「第3段階（23.0%）」が最も多く、「第1段階（13.1%）」、「第2段階（11.1%）」の順であった。

図表2-3-2 保険料段階（全体）

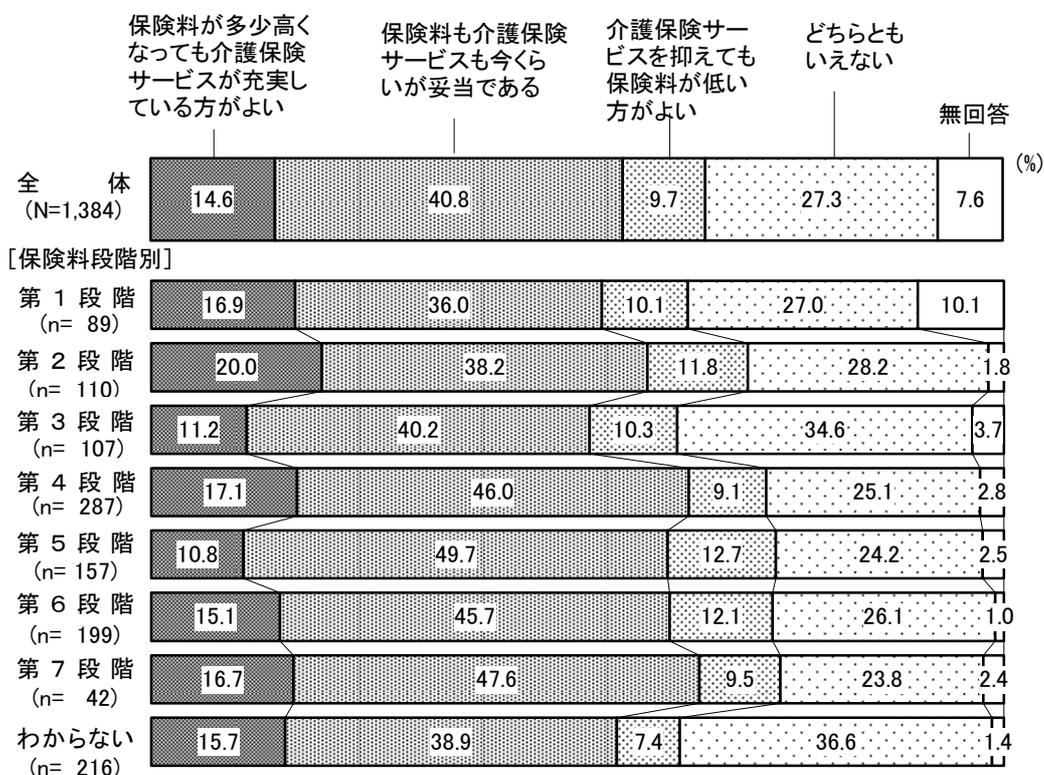


介護保険サービスと保険料についての考え方（問5）

介護保険サービスと保険料についての考え方は、「保険料も介護保険サービスも今くらいが妥当である（40.8%）」が最も多く、「どちらともいえない（27.3%）」、「保険料が多少高くなってもサービスが充実している方がよい（14.6%）」が続いている。

保険料段階別にみると、第3段階と第5段階では「保険料が多少高くなってもサービスが充実している方がよい」が少ない。（図表2-3-3）

図表2-3-3 介護保険サービスと保険料についての考え方
（全体、保険料段階別）

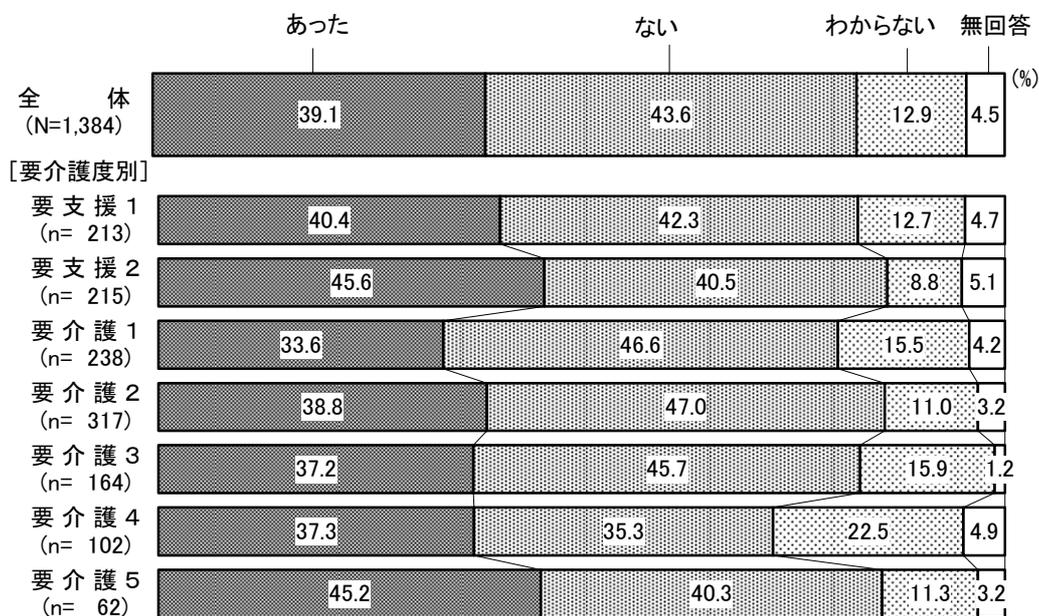


介護保険サービスの利用の変化（問6）

平成 18 年 4 月以降の介護保険サービスの利用の変化をたずねたところ、「あった（39.1%）」という回答が約 4 割であった。

要介護度別にみると、「あった」が全体平均を超えているのは、「要支援 2（45.6%）」、「要支援 1（40.4%）」と「要介護 5（45.2%）」であり、要介護度の軽い方と重い方に変化があったことが示されている（図表 2 - 3 - 4）。

図表 2 - 3 - 4 平成 18 年 4 月以降の介護保険サービスの利用の変化
（全体、要介護度別）

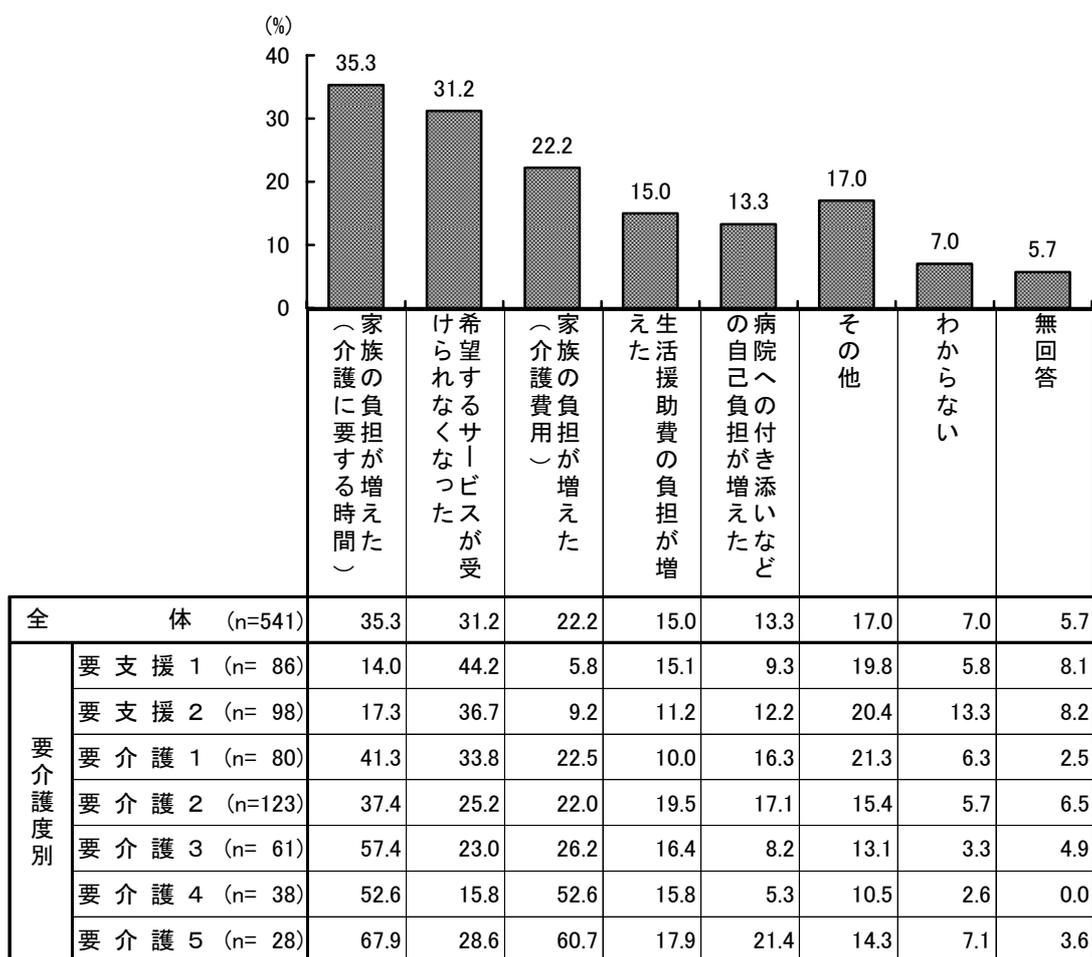


変化の内容（問6 - 1）

介護保険サービスの利用の変化が「あった」と回答した人に変化の内容をたずねたところ、「家族の負担が増えた（介護に要する時間）（35.3%）」が最も多く、「希望するサービスが受けられなくなった（31.2%）」、「家族の負担が増えた（介護費用）（22.2%）」が続いている。

要介護度別にみると、「家族の負担が増えた」は介護度の重い人に多く、「希望するサービスが受けられなくなった」は介護度の軽い人に多い（図表2 - 3 - 5）。

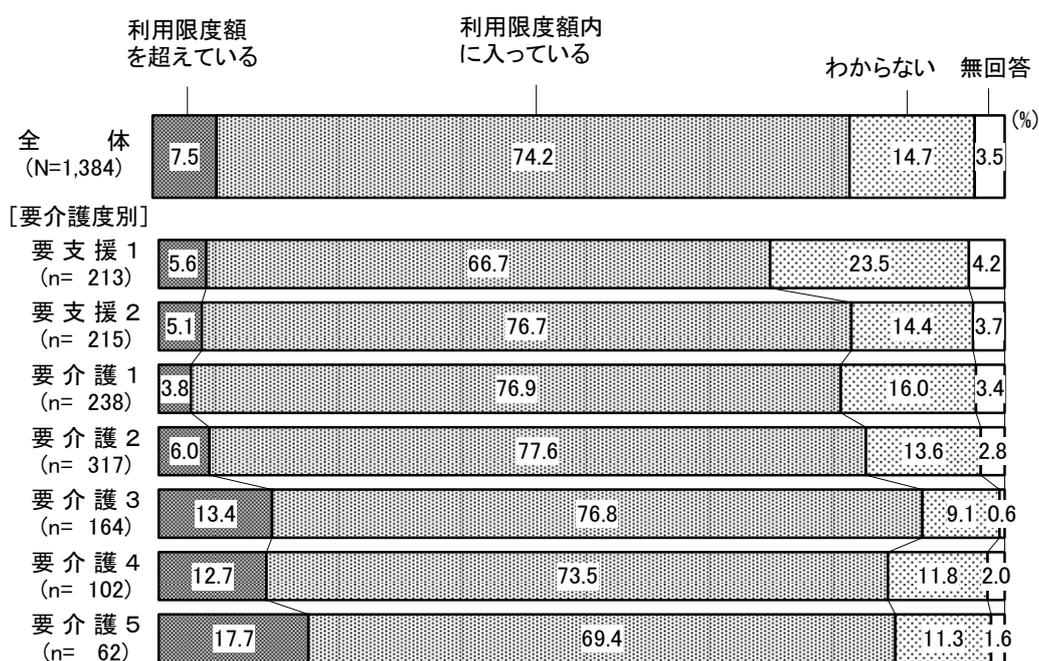
図表2 - 3 - 5 利用の変化の内容＜介護保険サービスの利用の変化があった人＞
（全体、要介護度別：複数回答）



介護保険サービスの利用料（問7）

介護保険サービスの利用料は、「利用限度額内に入っている（74.2%）」が7割を超える。
 要介護度別にみると、要介護度が重くなるほど「利用限度額を超えている」の割合が高くなる傾向がある（図表2-3-6）。
 前回調査より「利用限度内に入っている」が増加している（前回は65.6%）。

図表2-3-6 介護保険サービスの利用料（全体、要介護度別）



介護保険サービスの利用料が限度額を超えている理由（問7 - 1）

限度額を超えている理由は、「自己負担しても希望するサービスを受けたいから(53.8%)」が最も多く、「サービスの回数が足りないから(24.0%)」、「介護者がいないから(18.3%)」が続いている。

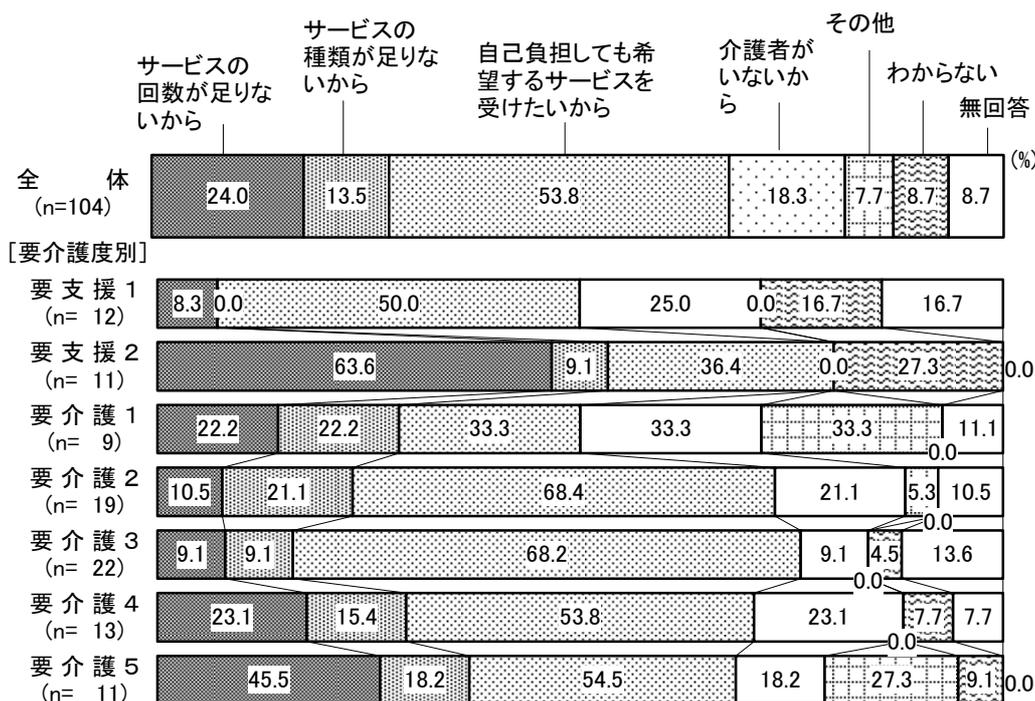
要介護度別にみると、要支援2は「サービスの回数が足りないから」が最も多いが、それ以外では「自己負担しても希望するサービスを受けたいから」が最も多く、特に要介護2、3では約7割近い(図表2 - 3 - 7)。

前回調査と比べると「自己負担しても希望するサービスを受けたいから」が2倍近く増加している(前回は29.7%)。

図表2 - 3 - 7 介護保険サービスの利用料が限度額を超えている理由

<利用限度額を超えていると回答した人>

(全体、要介護度別：複数回答)



介護保険サービスの利用料が限度額内の理由（問7 - 2）

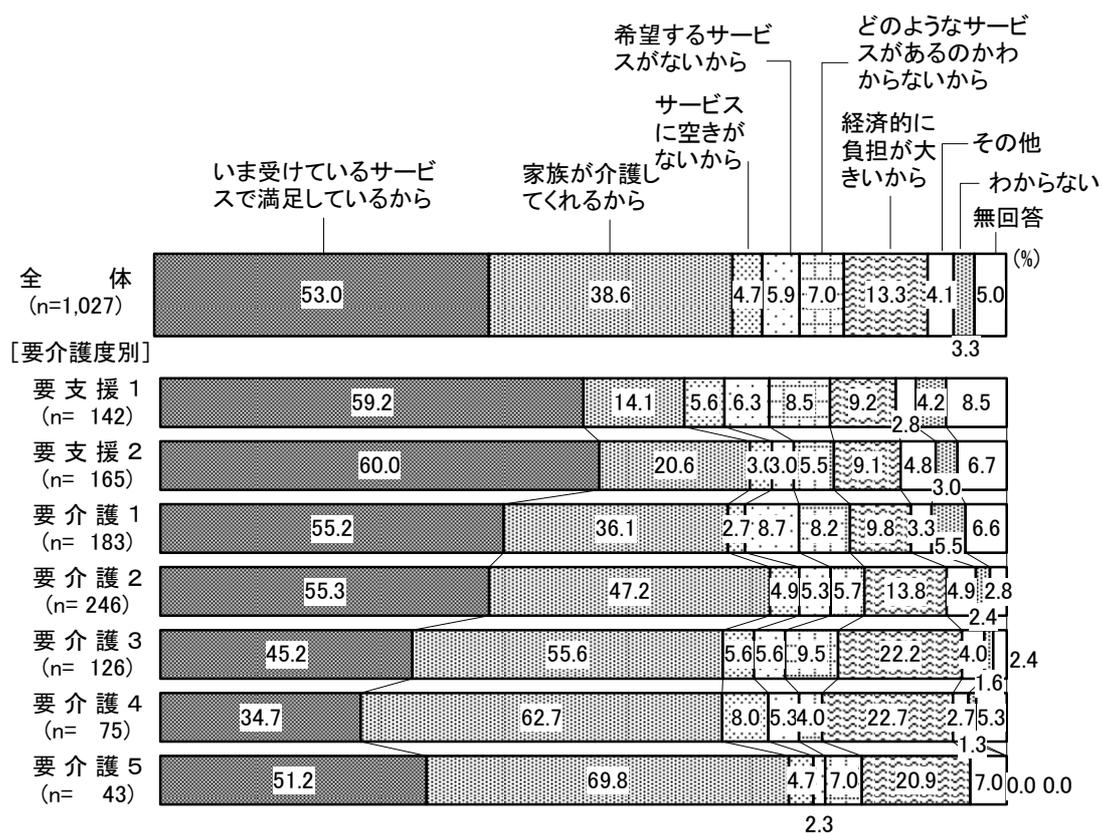
「利用限度額に入っている」と回答した人（7.5%）にその理由をたずねたところ、「いま受けているサービスで満足しているから（53.0%）」が最も多く、「家族が介護してくれるから（38.6%）」、「経済的に負担が大きいから（13.3%）」、「どのようなサービスがあるかわからないから（7.0%）」が続いている。

要介護度別にみると、「家族が介護してくれるから」は要介護度が重いほど割合が高く、「いま受けているサービスで満足しているから」は要介護度が軽いほど割合が高くなる傾向がある。（図表2 - 3 - 8）

図表2 - 3 - 8 介護保険サービスの利用料が限度額内の理由

< 利用限度額内と回答した人 >

（全体、要介護度別：複数回答）

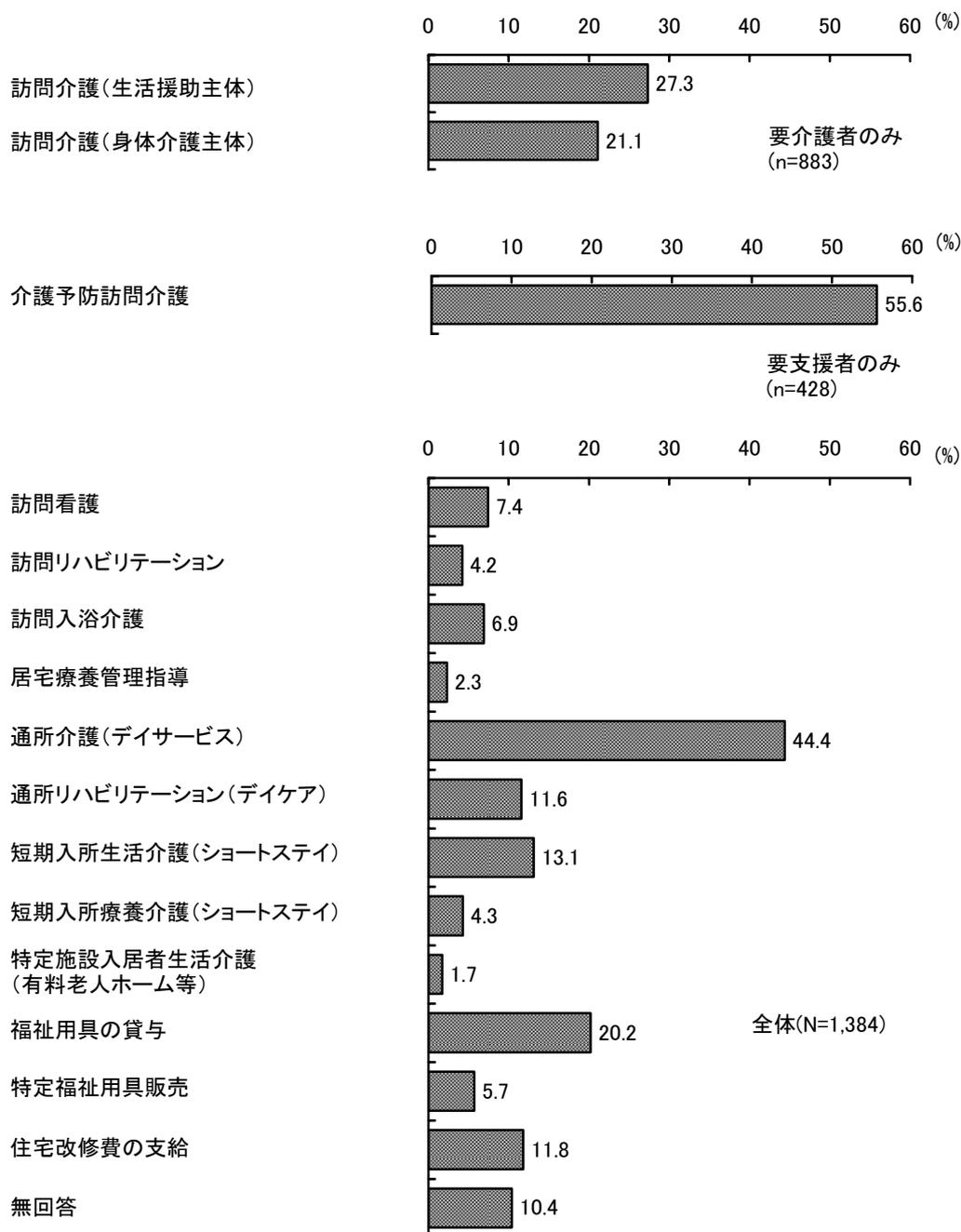


居宅サービスの利用状況（問8）

訪問介護の利用は、要支援者対象の「介護予防訪問介護（55.6%）」が5割以上、要介護者対象の「訪問介護（生活援助主体）（27.3%）」が3割弱、「訪問介護（身体介護主体）（21.1%）」が2割強である。

訪問介護以外のサービスでは「通所介護（デイサービス）（44.4%）」が最も多く、「福祉用具の貸与（20.2%）」、「短期入所生活介護（ショートステイ）（13.1%）」、「通所リハビリテーション（デイケア）（11.6%）」が続いている（図表2-3-9-）。

図表2-3-9- 居宅サービスの利用状況（全体）



訪問介護の利用状況は、要介護度別にみると、「訪問介護（生活援助主体）」では、介護度が重くなるほど、利用状況は減少している。「訪問介護（身体介護主体）」では、介護度が重くなるにつれて、利用状況は上がっている。「介護予防訪問介護」では、要支援1、要支援2ともに5割台である（図表2-3-9- ）。

図表2-3-9- 居宅サービスの利用状況（訪問介護）
（全体、要介護度別、地域別）

		訪問介護 (生活援助主体)		訪問介護 (身体介護主体)				介護予防訪問介護
								(%)
全 体 (n=883)		30.5	22.1			全 体 (n=428)		55.6
要介護度別	要介護1 (n=238)	37.0	13.9	要介護度別	要支援1 (n=213)	55.9		
	要介護2 (n=317)	31.9	15.8		要支援2 (n=215)	55.3		
	要介護3 (n=164)	17.7	22.0	地域別	第一地区 (n=64)	62.5		
	要介護4 (n=102)	16.7	35.3		第二地区 (n=84)	53.6		
	要介護5 (n=62)	9.7	50.0		第三地区 (n=98)	55.1		
第一地区 (n=197)	27.4	17.3	第四地区 (n=70)		58.6			
地域別	第二地区 (n=145)	27.6	20.0	第五地区 (n=51)	49.0			
	第三地区 (n=138)	31.2	24.6	第六地区 (n=42)	57.1			
	第四地区 (n=140)	26.4	20.7					
	第五地区 (n=112)	27.7	21.4					
	第六地区 (n=132)	24.2	23.5					

※要支援者のみ

※要介護者のみ

訪問介護以外のサービスの利用状況は、要介護度別にみると、要介護4までは「通所介護」が最も多くなっている。また、要介護4は「福祉用具の貸与」が5割を超えている。要介護5は「福祉用具の貸与(67.7%)」が最も多く、「訪問入浴介護(46.8%)」、「訪問看護(41.9%)」が続いている(図表2-3-9-)。

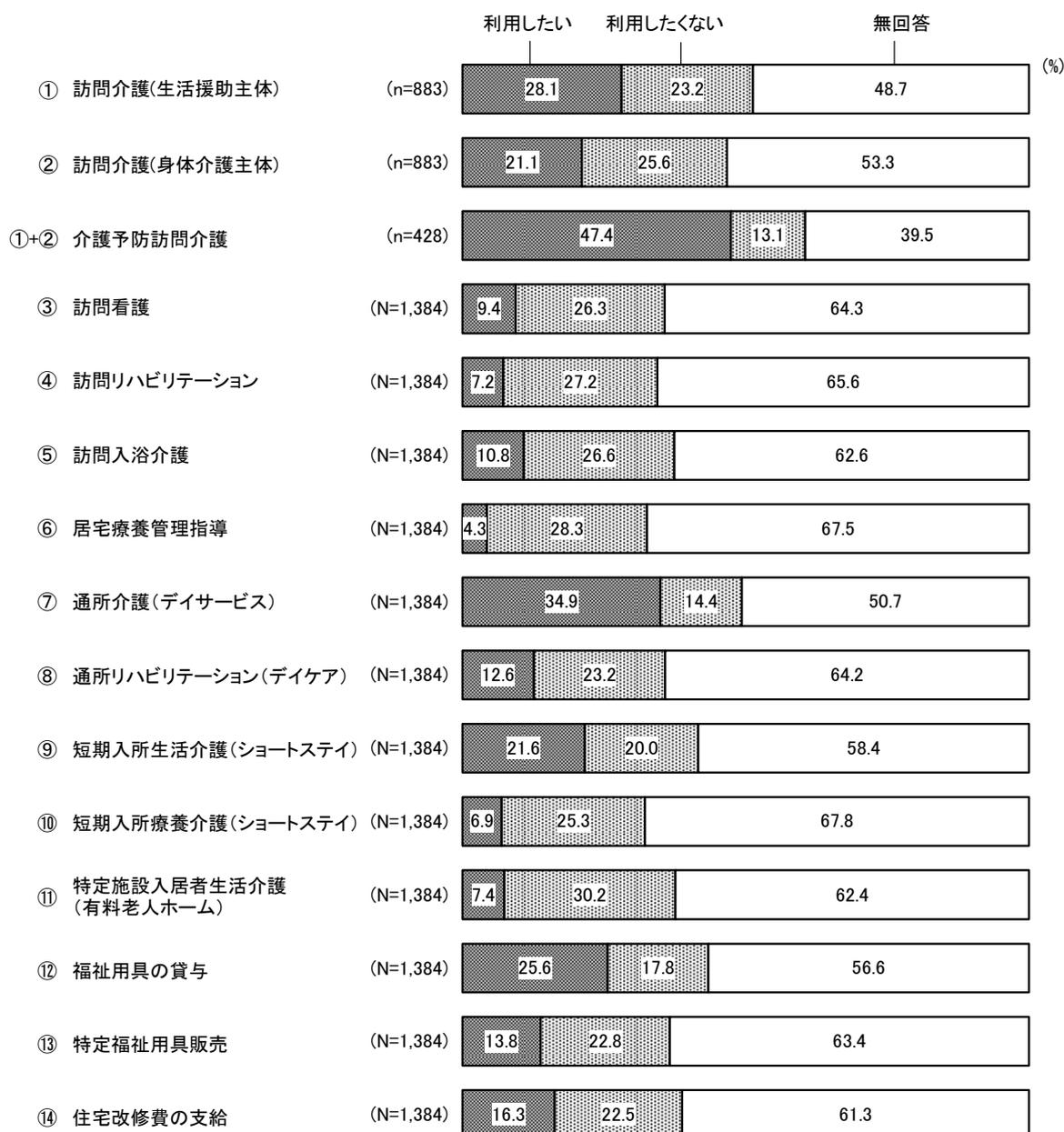
図表2-3-9- 居宅サービスの利用状況(訪問介護以外のサービス)
(全体、要介護度別、地域別)

		訪問看護	訪問リハビリテーション	訪問入浴介護	居宅療養管理指導	通所介護(デイサービス)	通所リハビリテーション(デイケア)	短期入所生活介護(ショートステイ)	短期入所療養介護(ショートステイ)	特定施設入居者生活介護(有料老人ホーム等)	福祉用具の貸与	特定福祉用具販売	住宅改修費の支給	無回答
全 体 (N=1,384)		7.4	4.2	6.9	2.3	44.4	11.6	13.1	4.3	1.7	20.2	5.7	11.8	10.4
要介護度別	要支援1 (n= 213)	2.3	1.9	1.9	0.0	24.4	7.0	0.5	0.0	1.9	2.8	0.9	7.0	17.4
	要支援2 (n= 215)	4.2	1.9	3.3	1.9	31.2	15.3	3.7	2.3	0.9	6.5	5.6	7.4	13.0
	要介護1 (n= 238)	4.6	2.5	0.8	0.8	45.4	11.8	10.1	1.3	2.1	9.2	2.5	10.1	9.7
	要介護2 (n= 317)	5.4	3.2	5.4	1.3	56.2	12.0	15.1	5.7	0.9	23.7	6.3	11.7	7.9
	要介護3 (n= 164)	6.7	4.9	7.3	2.4	67.1	14.0	28.0	10.4	3.0	34.8	6.7	15.9	4.9
	要介護4 (n= 102)	14.7	10.8	16.7	8.8	56.9	11.8	31.4	8.8	3.9	54.9	14.7	26.5	3.9
	要介護5 (n= 62)	41.9	17.7	46.8	12.9	29.0	9.7	27.4	8.1	1.6	67.7	11.3	12.9	3.2
地域別	第一地区 (n= 265)	10.6	3.8	6.8	3.8	45.3	15.5	14.7	5.7	0.4	25.7	4.5	10.2	7.9
	第二地区 (n= 237)	8.4	2.1	7.6	2.5	44.3	8.9	8.9	3.4	2.1	15.2	3.4	11.4	13.5
	第三地区 (n= 238)	2.9	4.6	6.3	1.3	45.8	8.8	12.2	3.4	1.3	15.5	5.5	13.4	11.3
	第四地区 (n= 212)	5.2	4.2	7.5	1.4	39.2	11.3	9.4	6.6	2.4	21.2	4.2	9.0	10.4
	第五地区 (n= 167)	9.0	4.8	6.0	3.0	45.5	9.0	19.8	2.4	1.8	23.4	8.4	10.8	10.8
	第六地区 (n= 178)	7.9	5.6	6.2	2.2	52.2	18.5	18.5	4.5	2.2	24.2	9.0	16.3	5.6

介護保険サービスの利用意向（問9）

利用したい居宅サービスは、「介護予防訪問介護（47.4%）」が最も多く、「通所介護（デイサービス）（34.9%）」、「訪問介護（生活援助主体）（28.1%）」、「短期入所生活介護（ショートステイ）（21.6%）」、「訪問介護（身体介護主体）（21.1%）」が続いている（図表2-3-10-1）。

図表2-3-10-1 居宅サービスの利用意向（全体）



訪問介護の利用意向は、要介護度別にみると、要介護1、要介護2は「訪問介護（生活援助主体）」が3割を超えている。要介護5は「訪問介護（身体介護主体）」が4割を超えている。要支援1、要支援2ともに「介護予防訪問介護」が4割台後半である（図表2-3-10 - ）」

図表2-3-10 - 居宅サービスの利用意向（訪問介護）
（全体、要介護度別、地域別）

		訪問介護 (生活援助主体)		訪問介護 (身体介護主体)				介護予防訪問介護
								(%)
全 体 (n=883)		28.1	21.1			全 体 (n=428)		47.4
要介護度別	要介護1 (n=238)	37.8	18.5	要介護度別	要支援1 (n=213)	46.9		
	要介護2 (n=317)	32.2	18.0		要支援2 (n=215)	47.9		
	要介護3 (n=164)	16.5	20.1		地域別	第一地区 (n=64)	53.1	
	要介護4 (n=102)	14.7	25.5			第二地区 (n=84)	44.0	
	要介護5 (n=62)	22.6	41.9			第三地区 (n=98)	49.0	
第一地区 (n=197)	28.4	16.8	第四地区 (n=70)	41.4				
地域別	第二地区 (n=145)	24.1	22.1	第五地区 (n=51)	49.0			
	第三地区 (n=138)	35.5	23.9	第六地区 (n=42)	52.4			
	第四地区 (n=140)	27.9	24.3					
	第五地区 (n=112)	25.0	15.2					
	第六地区 (n=132)	28.0	25.8					

※要介護者のみ

※要支援者のみ

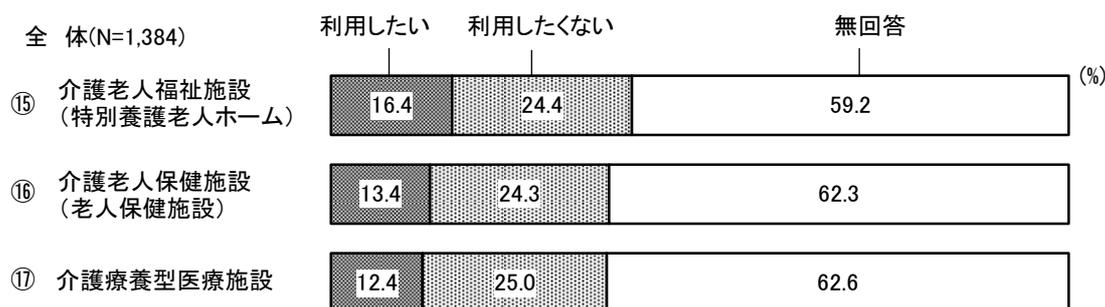
訪問介護以外のサービスの利用意向は、要介護度別にみると、要介護4までは「通所介護」が最も多くなっている。要介護5は「福祉用具の貸与（56.5%）」が最も多く、「訪問入浴介護（51.6%）」、「訪問看護（43.5%）」が続いている（図表2-3-10- ）。

図表2-3-10- 居宅サービスの利用意向（訪問介護以外のサービス）
（全体、要介護度別、地域別）

		訪問看護	訪問リハビリテーション	訪問入浴介護	居宅療養管理指導	通所介護（デイサービス）	通所リハビリテーション（デイケア）	短期入所生活介護（ショートステイ）	短期入所療養介護（ショートステイ）	特定施設入居者生活介護（有料老人ホーム）	福祉用具の貸与	特定福祉用具販売	住宅改修費の支給
全 体 (N=1,384)		9.4	7.2	10.8	4.3	34.9	12.6	21.6	6.9	7.4	25.6	13.8	16.3
要介護度別	要支援1 (n= 213)	3.8	1.9	3.8	1.9	21.6	8.5	3.8	1.9	8.0	13.1	8.9	10.3
	要支援2 (n= 215)	6.5	5.1	5.1	3.3	27.9	13.0	8.8	2.8	7.9	18.1	12.6	16.3
	要介護1 (n= 238)	8.8	7.6	6.3	3.4	37.0	13.0	21.8	4.2	9.2	24.4	14.3	15.5
	要介護2 (n= 317)	8.5	7.3	9.8	3.2	42.6	14.2	29.7	9.8	6.9	26.8	13.9	16.7
	要介護3 (n= 164)	10.4	10.4	15.9	6.7	46.3	16.5	39.0	14.0	8.5	32.9	14.0	19.5
	要介護4 (n= 102)	10.8	7.8	19.6	6.9	45.1	14.7	31.4	6.9	2.9	42.2	20.6	19.6
	要介護5 (n= 62)	43.5	25.8	51.6	16.1	32.3	12.9	38.7	19.4	8.1	56.5	29.0	29.0
地域別	第一地区 (n= 265)	10.2	6.8	9.8	6.0	34.3	12.5	23.4	6.4	6.8	25.3	14.7	16.6
	第二地区 (n= 237)	8.4	6.3	11.4	3.4	32.9	10.1	18.1	6.8	7.2	24.5	14.8	15.2
	第三地区 (n= 238)	8.0	7.6	12.6	5.0	38.7	14.7	23.9	6.7	11.3	24.8	12.2	16.0
	第四地区 (n= 212)	9.9	6.6	11.3	3.3	34.4	14.6	19.3	9.9	5.7	27.8	15.1	19.3
	第五地区 (n= 167)	10.2	6.6	8.4	2.4	38.9	8.4	22.2	3.6	6.6	28.1	13.8	15.6
	第六地区 (n= 178)	11.2	11.2	12.4	5.1	39.3	19.1	30.3	9.6	9.0	28.1	14.0	18.0

利用したい施設サービスは、3施設とも1割台だが、中では「介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）（16.4%）」が最も多い（図表2-3-10- ）。

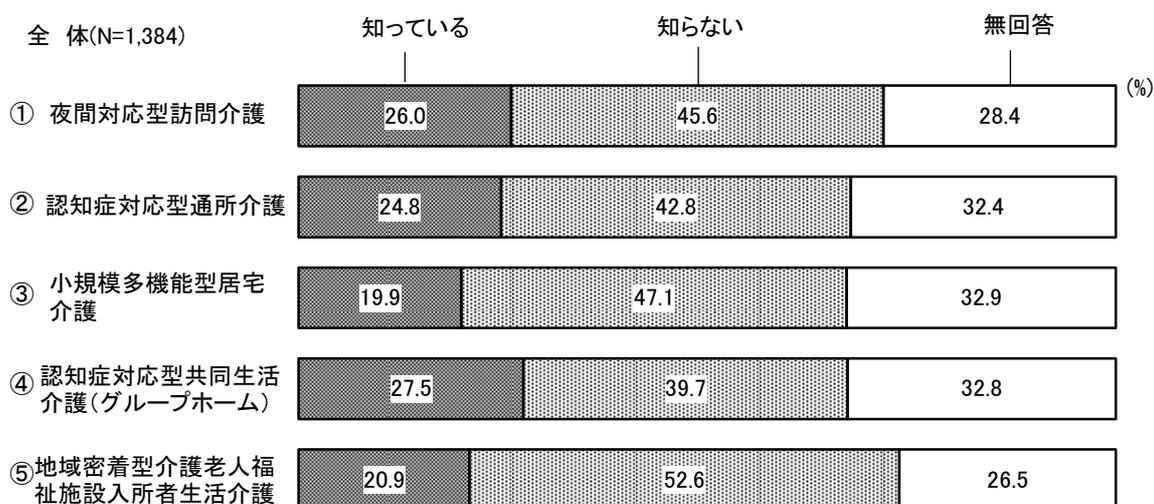
図表2-3-10- 施設サービスの利用意向（全体）



地域密着型サービスの認識度と利用意向（問10）

地域密着型サービスについて「知っている」は、「認知症対応型共同生活介護（グループホーム）（27.5%）」が最も多く、「夜間対応型訪問介護（26.0%）」、「認知症対応型通所介護（24.8%）」が続いている。いずれのサービスも「知らない」が多く、「地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護」は52.6%と5割以上となっている（図表2-3-11- ）。

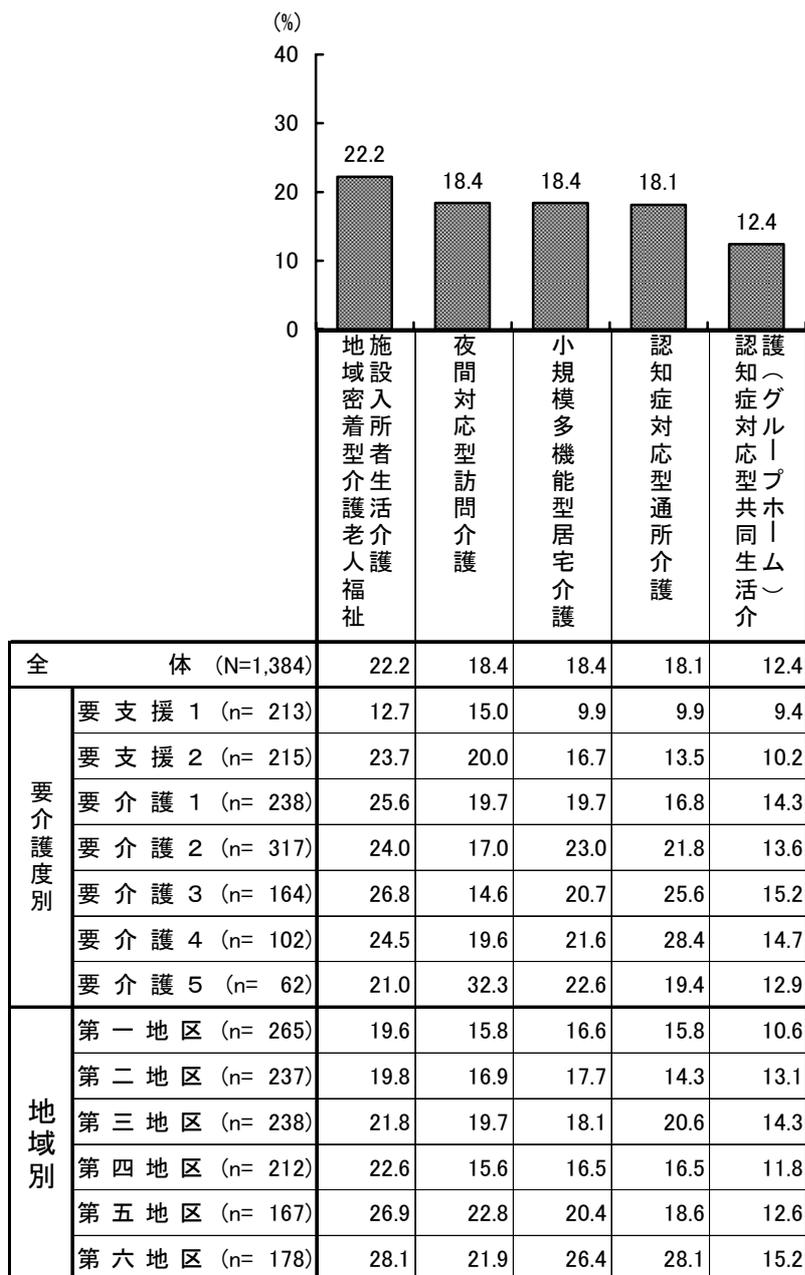
図表2-3-11- 地域密着型サービスの認識度（全体）



利用意向は、「地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護(22.2%)」が最も多く、「夜間対応型訪問介護」と「小規模多機能型居宅介護」が18.4%で続いている。

要介護度別にみると、「利用したい」は、要支援1と要介護5以外では、「地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護」が他のサービスよりやや多い(図表2-3-11-)。

図表2-3-11- 地域密着型サービスの「利用したい」の割合
(全体、要介護度別、地域別)

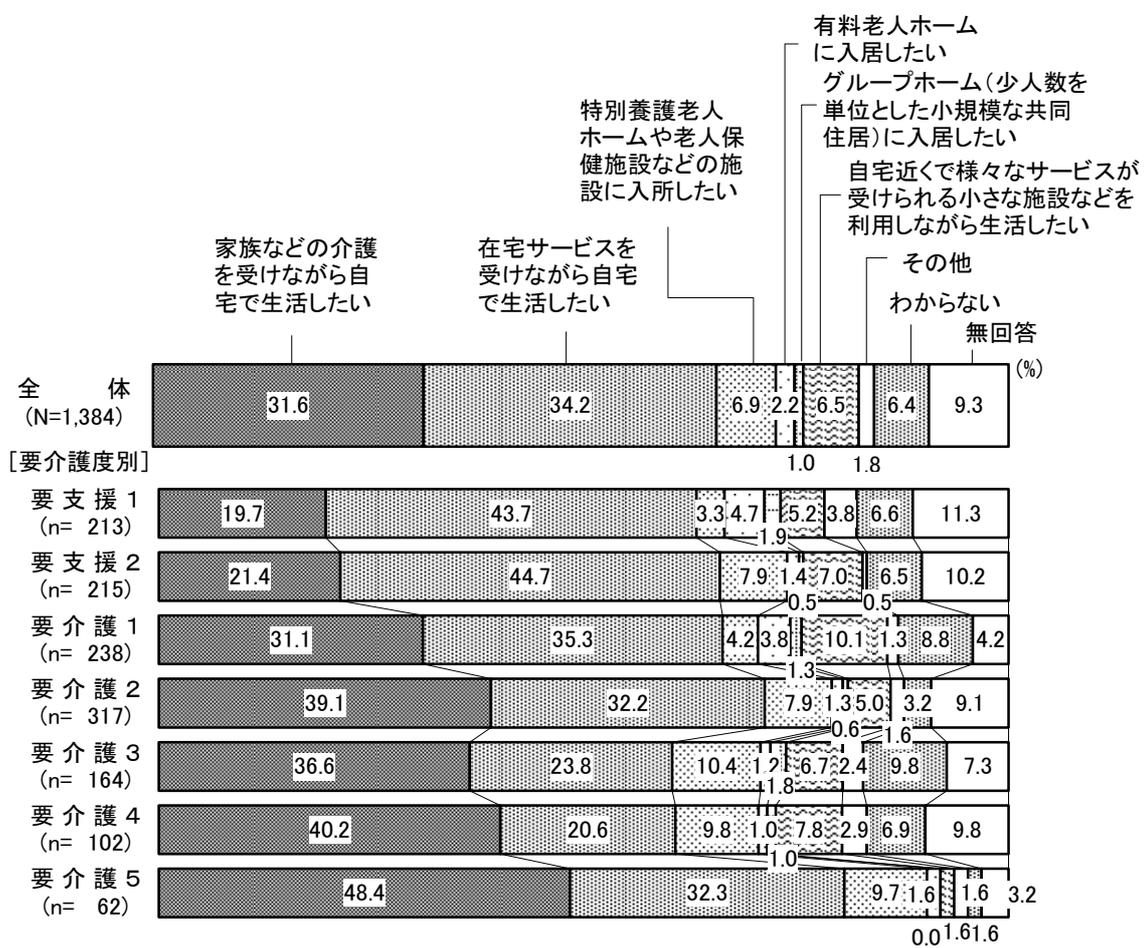


今後、生活したい場所（問 11）

今後、生活したい場所は、「在宅サービスを受けながら自宅で生活したい（34.2%）」、「家族などの介護を受けながら自宅で生活したい（31.6%）」を合わせると6割以上が自宅を希望している。

要介護度別にみると、介護度が重いほど「家族等の介護を受けながら自宅で生活したい」の割合が多くなっている（図表2-3-12）。

図表2-3-12 今後、生活したい場所
（全体、要介護度別）

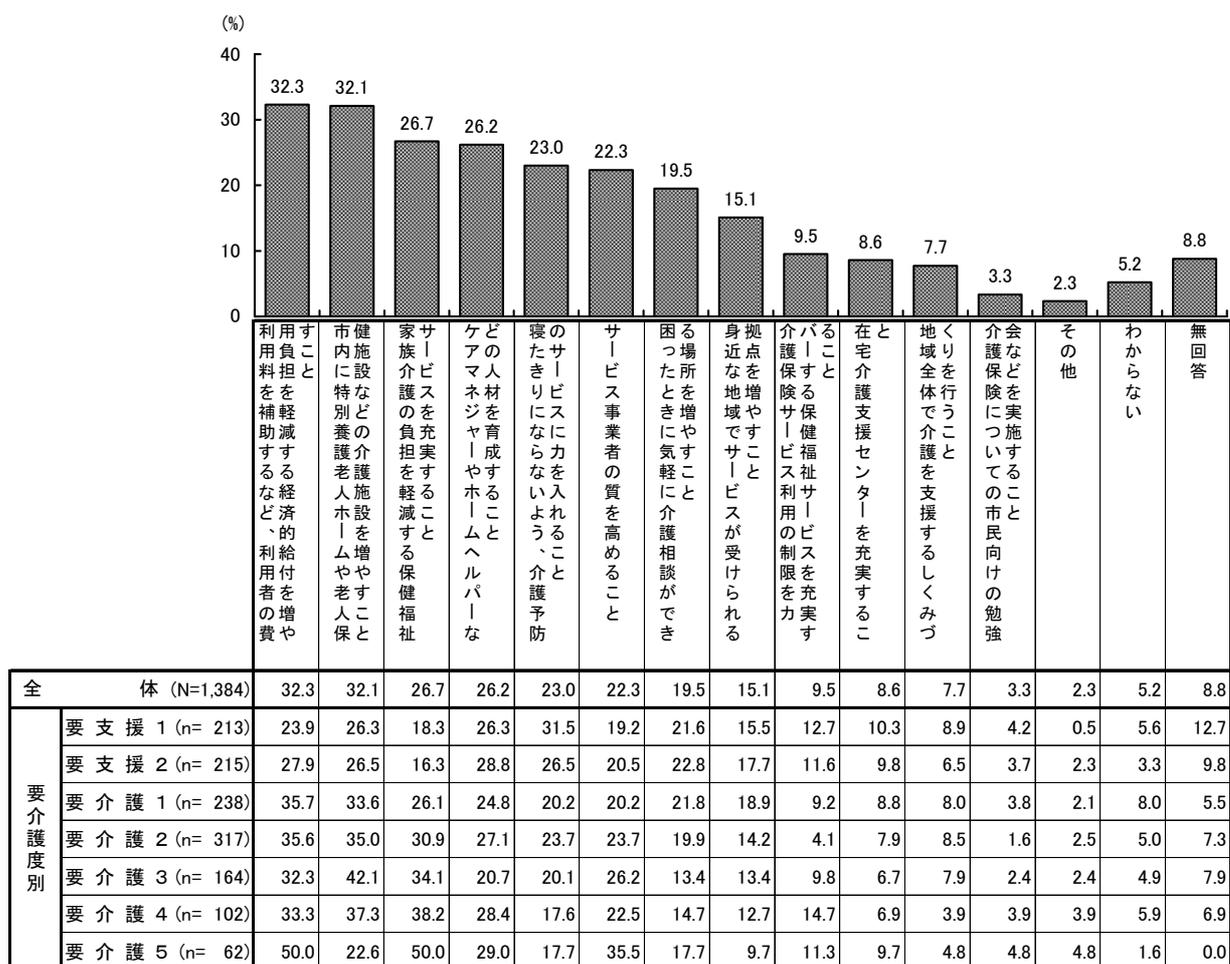


介護保険制度をよくするため、市が力を入れるべきこと（問 12）

介護保険制度をよりよくするため、市が力を入れるべきことは、「利用者の費用負担を軽減する経済的給付を増やすこと（32.3%）」が最も多く、「市内に特別養護老人ホームなどの介護施設を増やすこと（32.1%）」、「家族介護の負担を軽減する保健福祉サービスを充実すること（26.7%）」、「ケアマネジャーやホームヘルパーなどの人材を育成すること（26.2%）」、「寝たきりにならないよう介護予防サービスに力を入れること（23.0%）」が続いている。

要介護度別の上位2項目は、要支援1、2では「寝たきりにならないよう介護予防サービスに力を入れること」と「ケアマネジャーやホームヘルパーなどの人材を育成すること」、要介護1、2の軽度要介護では「利用者の費用負担を軽減する経済的給付を増やすこと」と「市内に特別養護老人ホームなどの介護施設を増やすこと」、要介護3以上の重度要介護では「家族介護の負担を軽減する保健福祉サービスを充実すること」と「市内に特別養護老人ホームなどの介護施設を増やすこと」となっている（図表2-3-13）

図表2-3-13 介護保険制度をよくするため、市が力を入れるべきこと
（全体、要介護度別：複数回答）



(4) 利用者本位のサービスのあり方

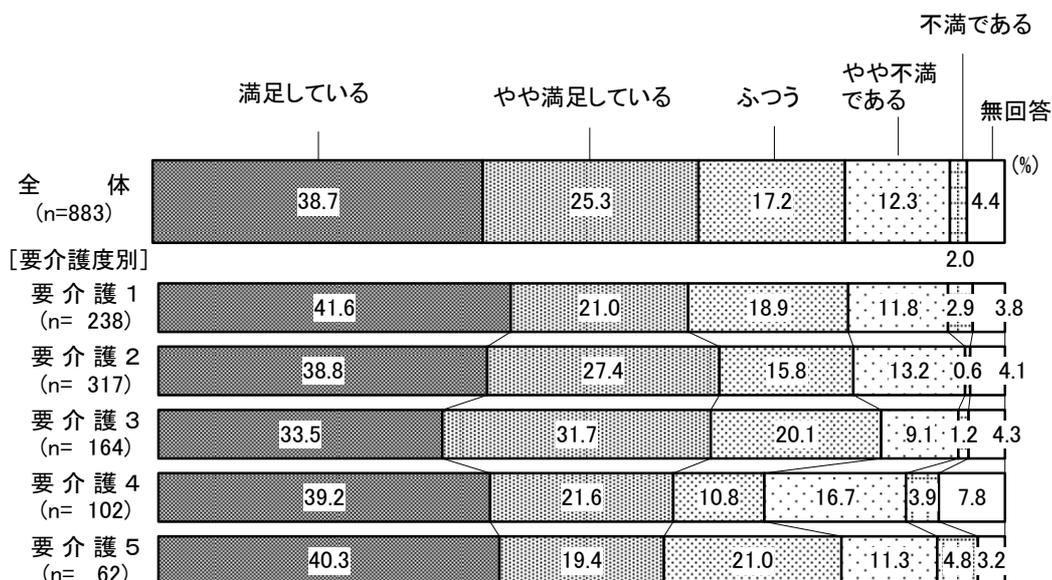
ケアプランの満足度(問13) <要介護者>

要介護1～5の方のケアプランの満足度については、「満足している(38.7%)」が最も多く、「やや満足している(25.3%)」、「ふつう(17.2%)」が続いている。満足率(「満足している」+「やや満足している」)は64.0%で、6割を超えている。

要介護度別にみると、要介護度別にあまり大きな違いはないが、要介護1と要介護5で「満足している」がやや多い(図表2-4-1)。

前回調査と比べると「満足している」(前回40.4%)が微減し、「やや満足している」(前回18.6%)が増加している。

図表2-4-1 ケアプランの満足度<要介護者>(全体、要介護度別)



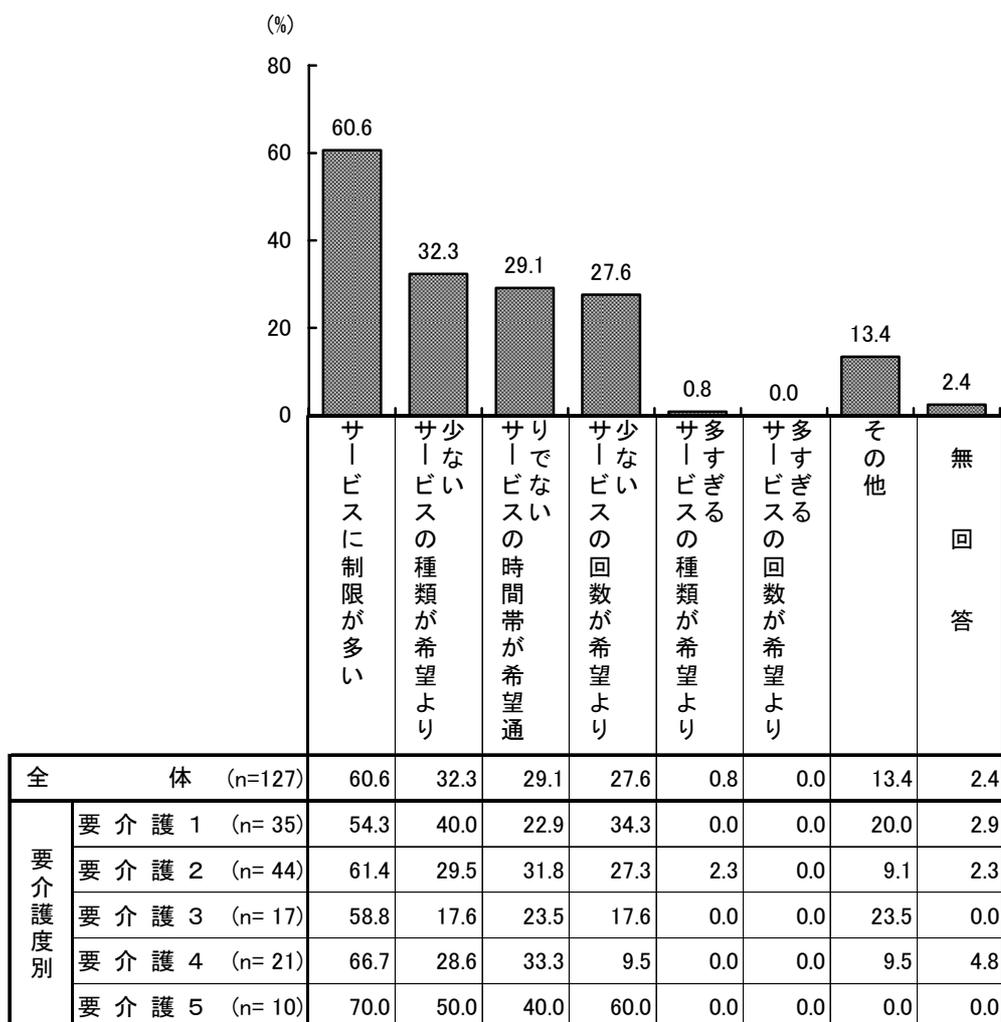
ケアプランの不满の内容（問 13 - 1）

ケアプランへの不满の内容については、「サービスに制限が多い（60.6%）」が最も多く、「サービスの種類が希望より少ない（32.3%）」、「サービスの時間帯が希望通りでない（29.1%）」、「サービスの回数が希望より少ない（27.6%）」が続いている。

要介護度別にみると、いずれも「サービスに制限が多い」が最も多いが、要介護4と5では他より多く、7割となっている（図表2-4-2）。

なお、前回調査には、「サービスの制限が多い」という選択肢はなかった。

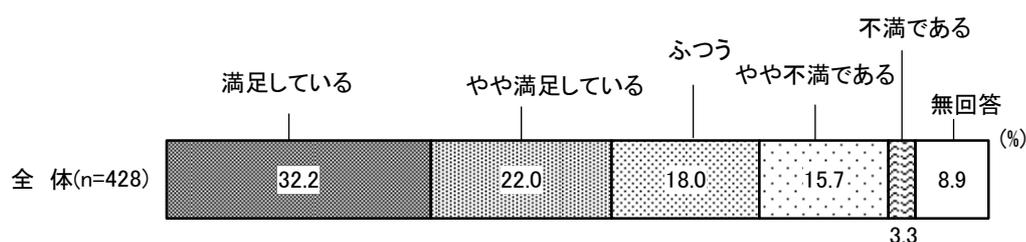
図表2-4-2 ケアプランの不满の内容＜不满と回答した人＞
（全体、要介護度別：複数回答）



介護予防ケアプランの満足度（問 14）＜要支援者＞

要支援 1～2 の方の介護予防ケアプランの満足度については、「満足している（32.2%）」が最も多く、「やや満足している（22.0%）」、「ふつう（18.0%）」が続いている。満足率（「満足している」＋「やや満足している」）は 54.2% で半数強である（図表 2 - 4 - 3）。

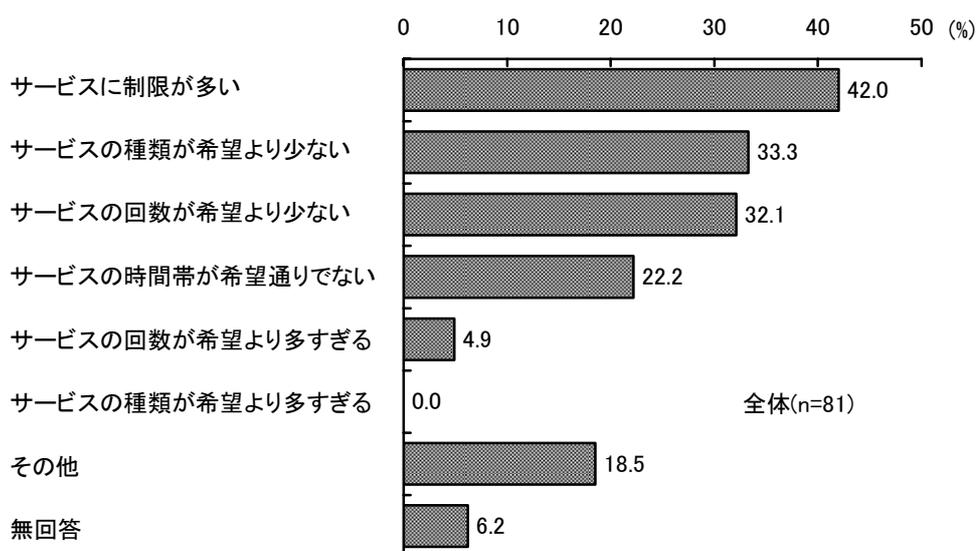
図表 2 - 4 - 3 介護予防ケアプランの満足度
＜要支援者＞（全体）



介護予防ケアプランの不満の内容（問 14 - 1）

介護予防ケアプランへの不満の内容については、「サービスに制限が多い（42.0%）」が最も多く、「サービスの種類が希望より少ない（33.3%）」、「サービスの回数が希望より少ない（32.0%）」、「サービスの時間帯が希望通りでない（22.2%）」が続いている（図表 2 - 4 - 4）。

図表 2 - 4 - 4 介護予防ケアプランの不満の内容
＜不満と回答した人＞（全体：複数回答）

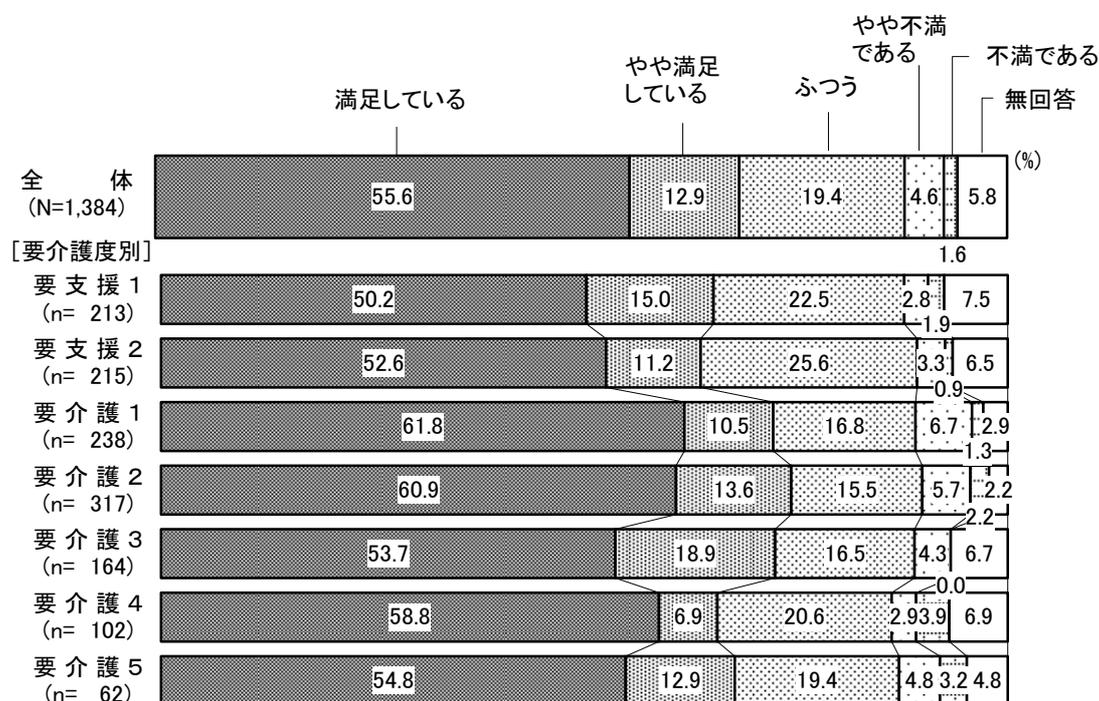


ケアマネジャーに対する満足度（問 15）

ケアマネジャーに対しては、「満足している（55.6%）」と「やや満足している（12.9%）」を合わせて7割近くが満足している。

要介護度別にみると、「要支援」では満足度がやや低い（図表2-4-5）。前回調査と比べると、「満足している」が増加している（前は48.3%）。

図表2-4-5 ケアマネジャーに対する満足度（全体、要介護度別）

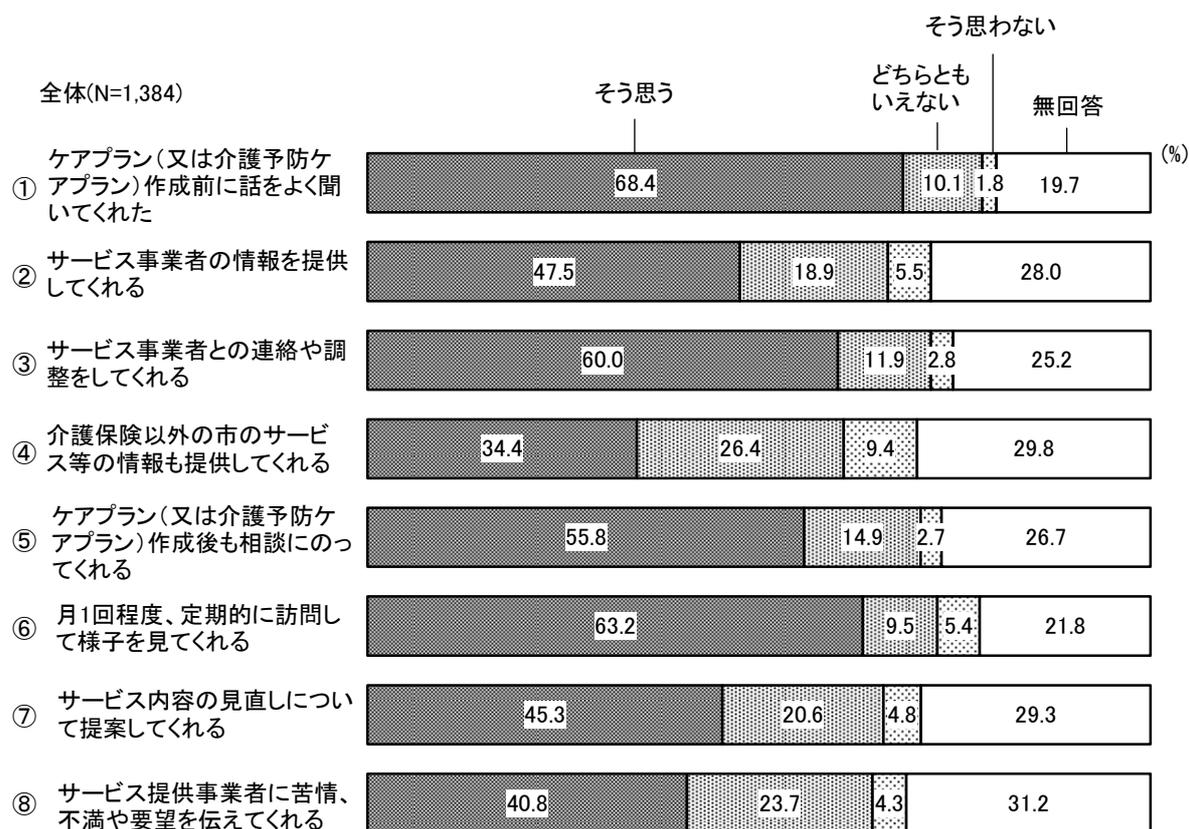


ケアマネジャーの対応への評価（問16）

ケアマネジャーの対応への評価で、「そう思う」が5割を超えるのは、「ケアプラン（又は介護予防ケアプラン）作成前に話をよく聞いてくれた（68.4%）」、「月1回程度、定期的に訪問して様子を見てくれる（63.2%）」、「サービス事業者との連絡や調整をしてくれる（60.6%）」、「ケアプラン（又は介護予防ケアプラン）作成後も相談にのってくれる（55.8%）」の4項目である。

「サービス事業者の情報を提供してくれる（47.5%）」、「サービス内容の見直しについて提案してくれる（45.3%）」、「サービス提供事業者に苦情、不満や要望を伝えてくれる（40.8%）」の3項目は「そう思う」が4割台、「介護保険以外の市のサービス等の情報も提供してくれる（34.4%）」は「そう思う」が3割台となっている（図表2-4-6）。

図表2-4-6 ケアマネジャーの対応への評価（全体）

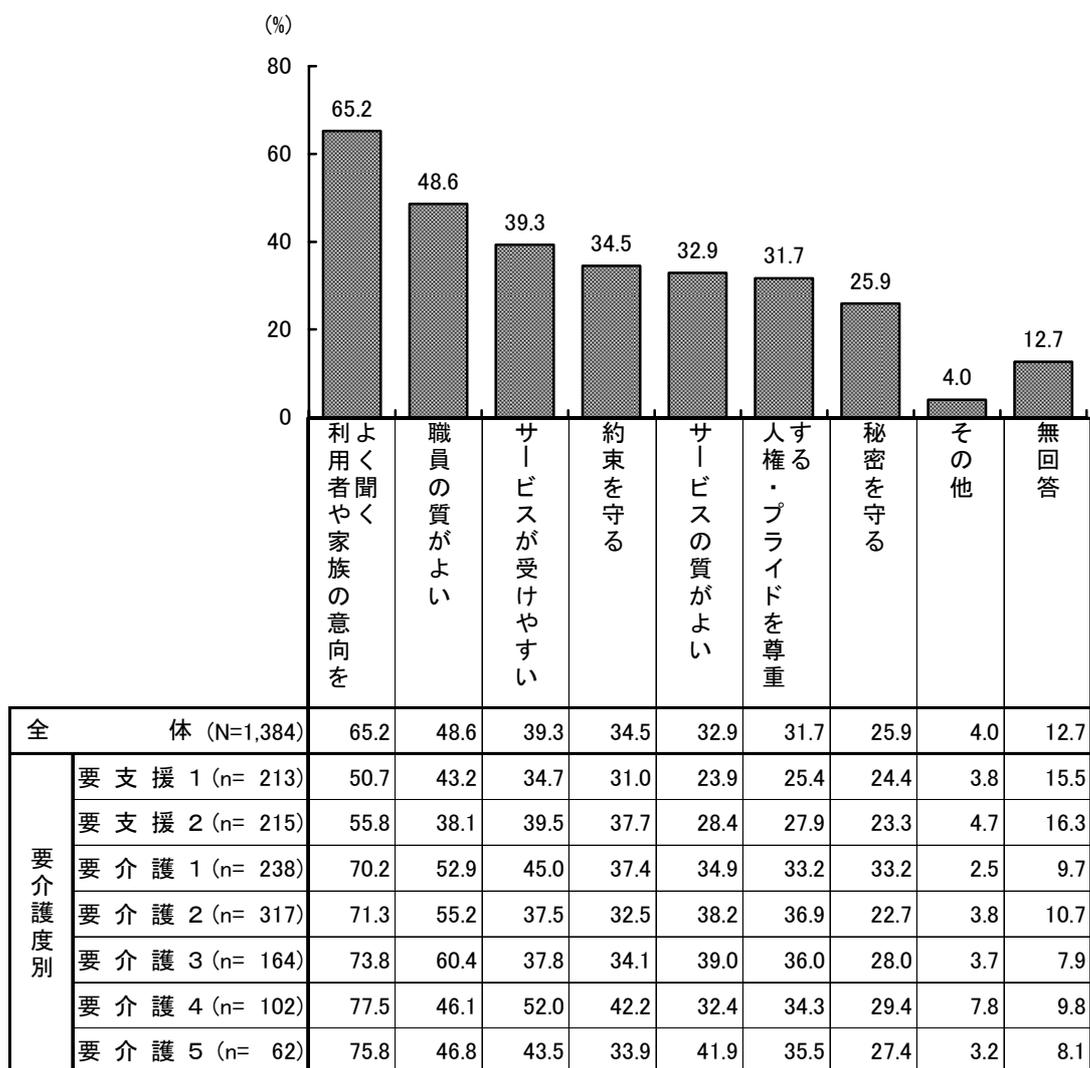


介護サービス事業者を評価する点（問 17）

介護サービス事業者を評価する点は、「利用者や家族の意向をよく聞く（65.2%）」が最も多く、「職員の質がよい（48.6%）」、「サービスが受けやすい（39.3%）」、「約束を守る（39.3%）」が続いている。

要介護度別にみると、全体の上位2項目の「利用者や家族の意向をよく聞く」と「職員の質がよい」では、「要支援者」より「要介護者」の方が、評価がやや高い（図表2-4-7）。

図表2-4-7 介護サービス事業者を評価する点（全体、要介護度別：複数回答）

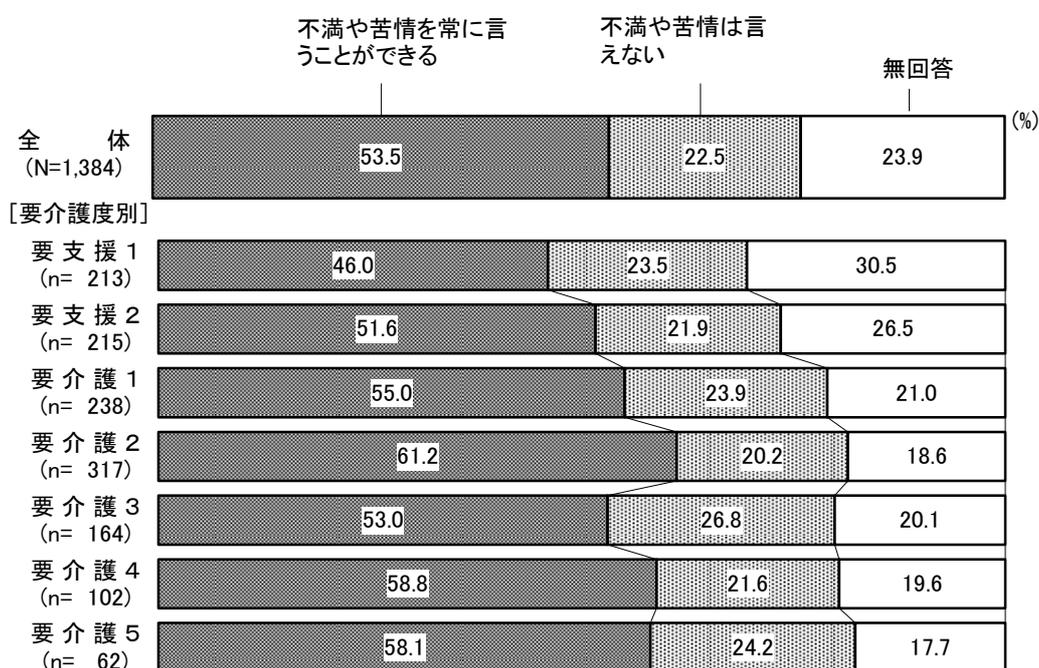


介護サービス事業者に不満や苦情を言える環境（問18）

「不満や苦情を常に言うことができる（53.5%）」が5割を超えているが、「不満や苦情は言えない（22.5%）」は2割強となっている。

要介護度別にみると、要支援では「不満や苦情を常に言うことができる」割合が全体よりやや低い（図表2-4-8）。

図表2-4-8 介護サービス事業に不満や苦情を言うことができる環境の有無
（全体、要介護度別）

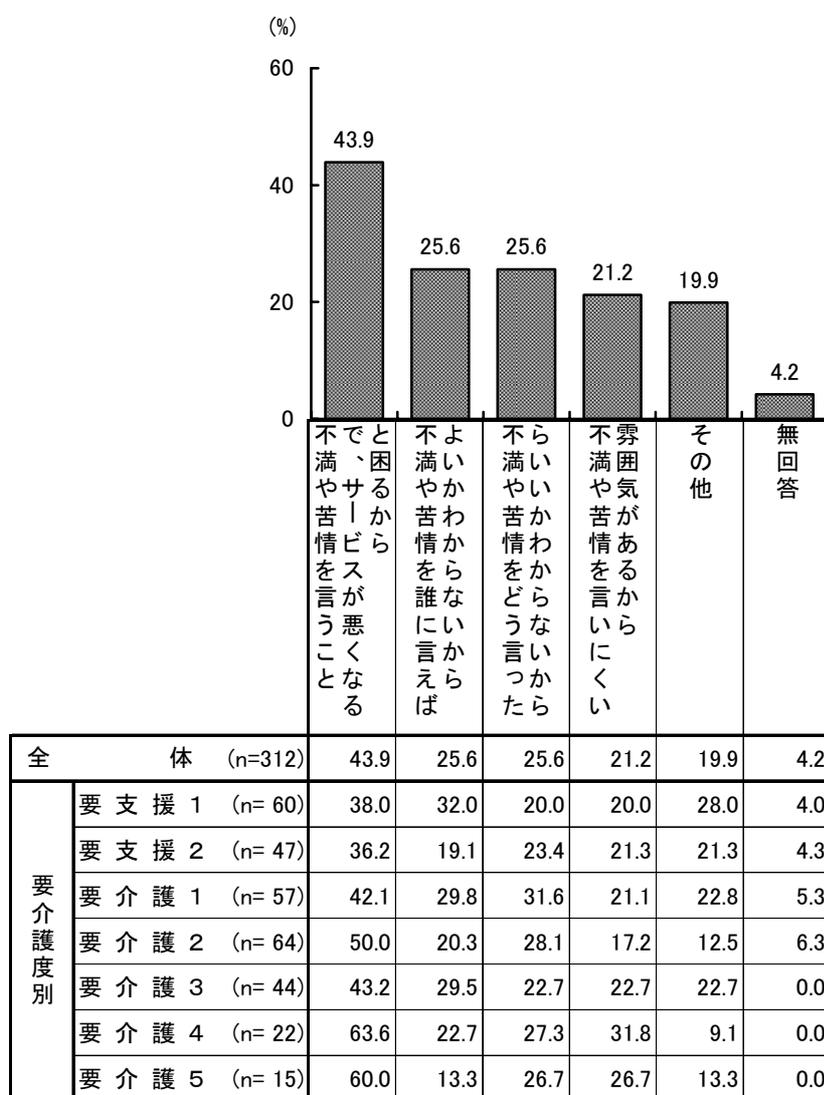


不満や苦情を言えない理由（問 18 - 1）

不満や苦情を言えない理由については、「不満や苦情を言うことで、サービスが悪くなると困るから（43.9%）」が最も多く、「不満や苦情を誰に言えばよいかわからないから」と「不満や苦情をどう言ったらいいかわからないから」が25.6%で続いている。

要介護度別にみると、要介護4と5で「不満や苦情を言うことで、サービスが悪くなると困るから」の割合が特に高く、6割以上である（図表2 - 4 - 9）。

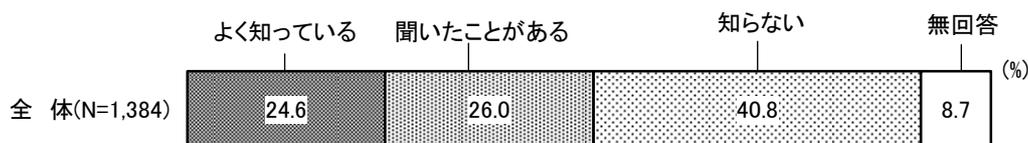
図表2 - 4 - 9 不満や苦情を言えない理由＜不満や苦情は言えないと回答した人＞
（全体、要介護度別：複数回答）



マイケアプラン（介護予防マイケアプラン）の周知状況（問 19）

自分でケアプランや介護予防ケアプランを作成する方法があるのを知っているかどうかをたずねたところ、「知らない（40.8%）」が最も多く、「聞いたことがある（26.0%）」、「よく知っている（24.6%）」が続いている（図表 2 - 4 - 10）。

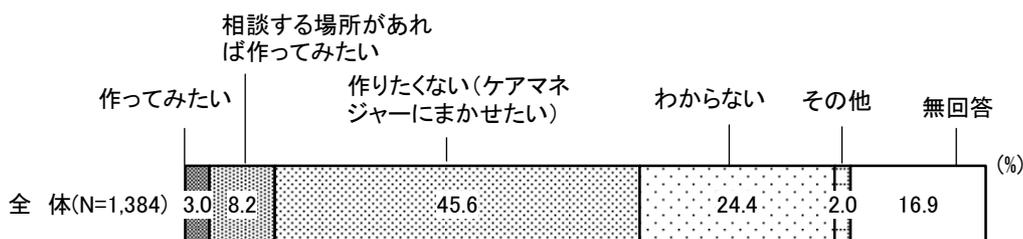
図表 2 - 4 - 10 マイケアプラン（介護予防マイケアプラン）の周知状況（全体）



マイケアプラン（介護予防マイケアプラン）の作成意向（問 19 - 1）

「作りたくない（ケアマネジャーにまかせたい）（45.6%）」が最も多く、次いで「わからない（24.4%）」が続いている。「作ってみたい（3.0%）」、「相談するところがあれば作ってみたい（8.2%）」を合わせると、作ってみたい人が 1 割程度いることがうかがわれる（図表 2 - 4 - 11）。

図表 2 - 4 - 11 マイケアプラン（介護予防マイケアプラン）の作成意向（全体）

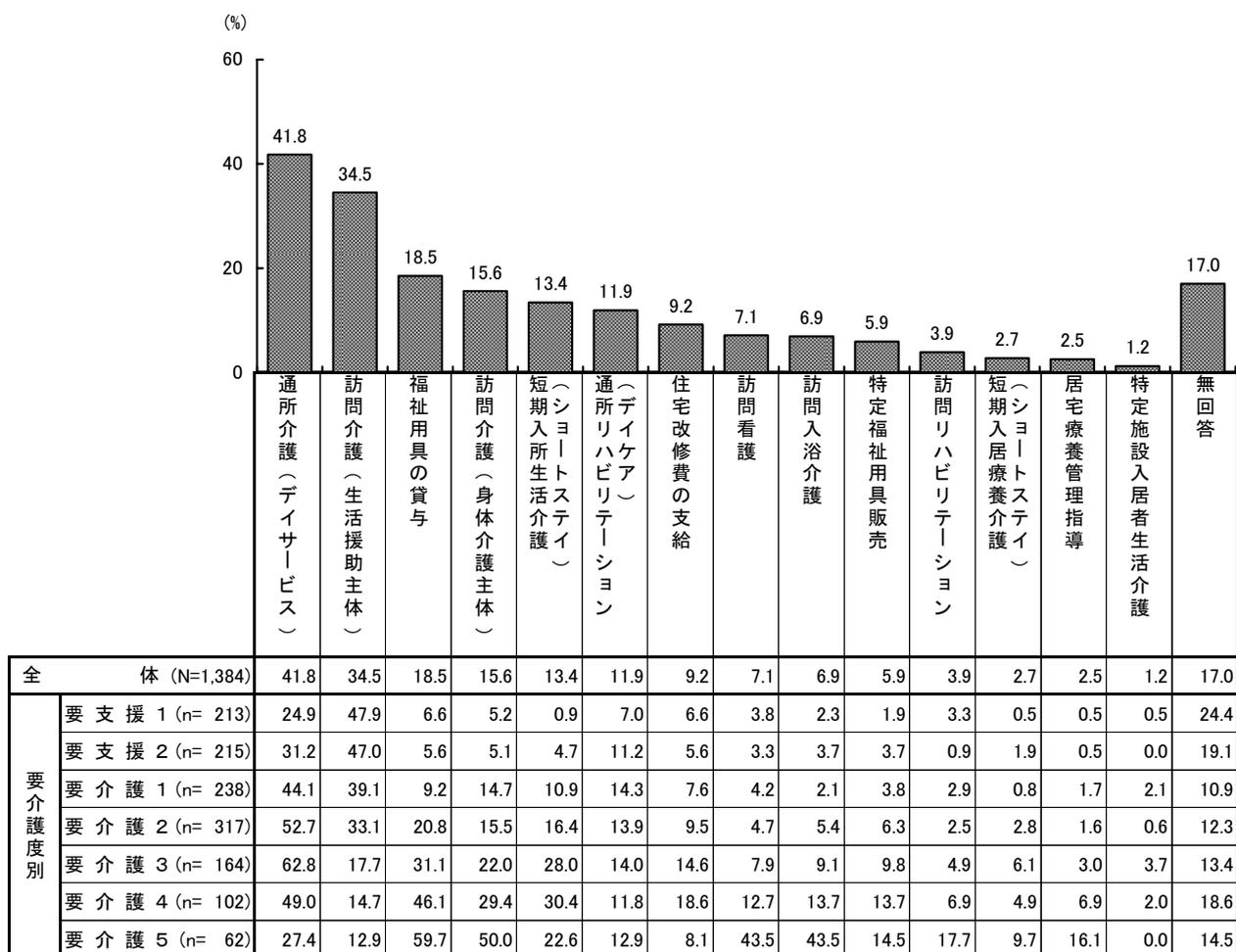


(5) 介護保険サービスの満足度

利用している居宅サービス(問20-A)

利用している居宅サービスは、「通所介護(デイサービス)(41.8%)」が最も多く、「訪問介護(生活援助主体)(34.5%)」、「福祉用具の貸与(18.5%)」、「訪問介護(身体介護主体)(15.6%)」、「短期入所生活介護(ショートステイ)(13.4%)」が続いている(図表2-5-1)。

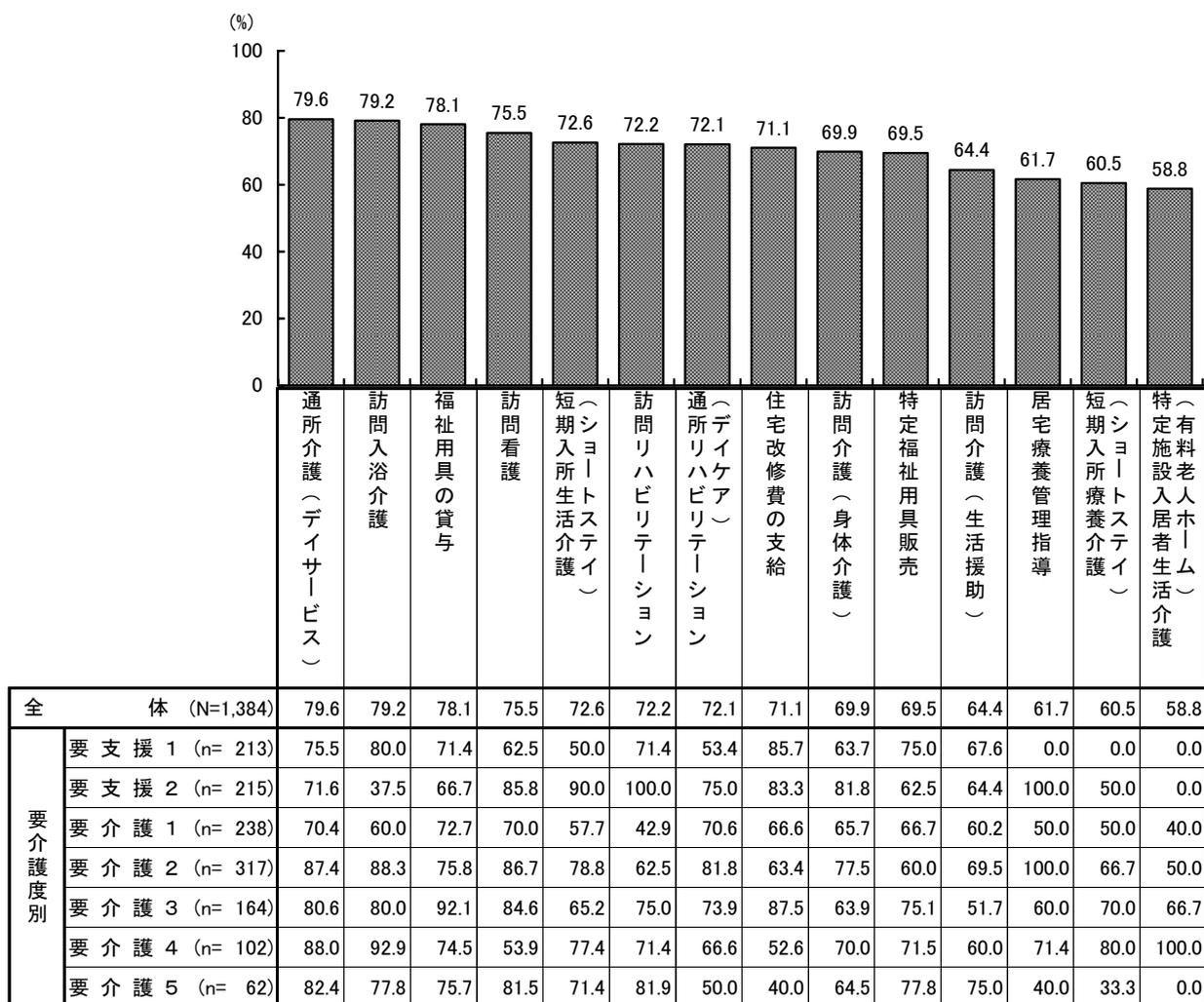
図表2-5-1 利用している居宅サービス(全体、要介護度別)



利用している居宅サービスの満足度（問20 - B）

利用している居宅サービスの満足度をたずねたところ、満足度（「満足」、「やや満足」をあわせた割合）は「通所介護（デイサービス）（79.6%）」が最も高く、「訪問入浴介護（79.2%）」、「福祉用具の貸与（78.1%）」が続いている（図表2 - 5 - 2）

図表2 - 5 - 2 利用している居宅サービスの満足度（全体）



不満の理由：複数回答（問 20 - C）

不満の理由としては、訪問系サービスでは、「回数や時間が足りない」、「技術的に不安を感じる」、「担当者がよく替わる」が上位にあげられている。通所系サービスは、訪問系であげられている不満の他、「利用の日時があわない」があげられている。ショートステイは「利用の日時があわない」が、福祉用具の貸与と住宅改修費の支給では「利用料が高い」が上位にあげられている（図表 2 - 5 - 3）。

図表 2 - 5 - 3 不満の理由（全体）

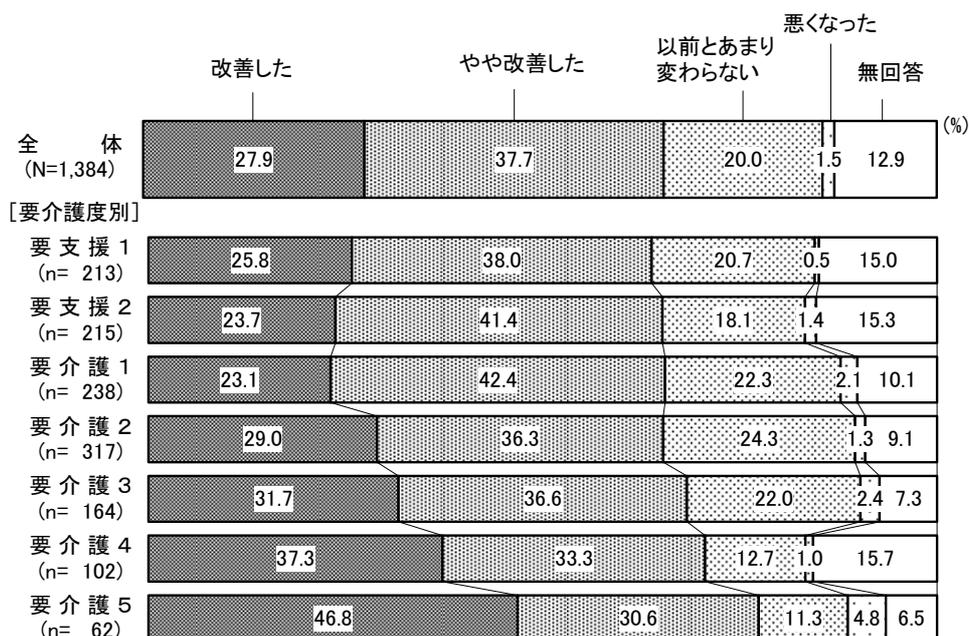
	1位	2位	3位	4位	5位
① 訪問介護(生活援助主体) (n=41)	回数や時間が足りない 53.7	技術的に不安を感じる 12.2	契約内容とサービスが違っている／担当者がよく替わる／担当者とは合わない 7.3		
② 訪問介護(身体介護主体) (n=17)	回数や時間が足りない 29.4	技術的に不安を感じる／担当者がよく替わる 17.6	利用の日時があわない／契約内容とサービスが違っている／緊急時に対応してくれない 11.8		
③ 訪問看護 (n= 5)	利用の日時があわない／技術的に不安を感じる／担当者がよく替わる 20.0		-	-	-
④ 訪問リハビリテーション (n= 3)	回数や時間が足りない 66.7	利用の日時があわない／不満、要望などを聞いてもらえない 33.3	-	-	-
⑤ 訪問入浴介護 (n= 5)	担当者がよく替わる 40.0	回数や時間が足りない／利用の日時があわない／利用料が高い 20.0	-	-	-
⑥ 居宅療養管理指導 (n= 1)	利用料が高い 100.0	-	-	-	-
⑦ 通所介護(デイサービス) (n=20)	回数や時間が足りない 45.0	利用の日時があわない／契約内容とサービスが違っている／不満、要望などを聞いてもらえない／技術的に不安を感じる 10.0			
⑧ 通所リハビリテーション(デイケア) (n= 8)	回数や時間が足りない／利用の日時があわない／技術的に不安を感じる／不満、要望などを聞いてもらえない／利用料が高い 12.5				
⑨ 短期入所生活介護(ショートステイ) (n=19)	回数や時間が足りない／利用の日時があわない 21.1	緊急時に対応してくれない 15.8	技術的に不安を感じる／担当者とは合わない 10.5		
⑩ 短期入居療養介護(ショートステイ) (n= 2)	利用の日時があわない 50.0	-	-	-	-
⑪ 特定施設入居者生活介護 (n= 2)	担当者がよく替わる／プライバシーへの配慮がない／緊急時に対応してくれない 50.0		-	-	-
⑫ 福祉用具の貸与 (n= 4)	利用料が高い／緊急時に対応してくれない 25.0	-	-	-	-
⑬ 特定福祉用具販売 (n= 4)	緊急時に対応してくれない 25.0	-	-	-	-
⑭ 住宅改修費の支給 (n= 9)	利用料が高い 22.2	サービス内容についての説明が不十分である 11.1	-	-	-

サービス利用後の生活環境や身体状況の変化（問 21）

サービス利用後の生活環境や身体状況の変化は、「改善した（27.9%）」と「やや改善した（37.7%）」を合わせると6割以上が改善している。

要介護度別にみると、「改善した」は介護度が重くなるほど多くなり、「やや改善した」は介護度が軽くなるほど多くなる傾向がみられる（図表2-5-4）。

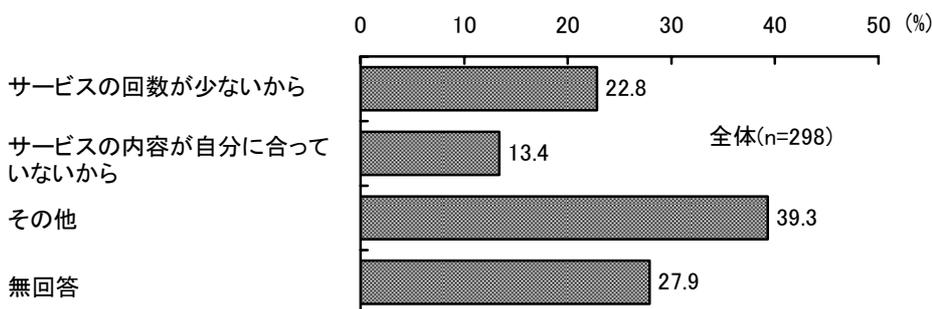
図表2-5-4 サービス利用後の変化（全体、要介護度別）



変化がない理由：複数回答（問 21-1）

生活環境や身体状況に変化がない理由は、「サービスの回数が少ないから（22.8%）」が最も多く、「サービスの内容が自分に合っていないから（13.4%）」が続いている（図表2-5-5）。

図表2-5-5 変化がない理由<変わらない、悪くなったと回答した人>（全体：複数回答）



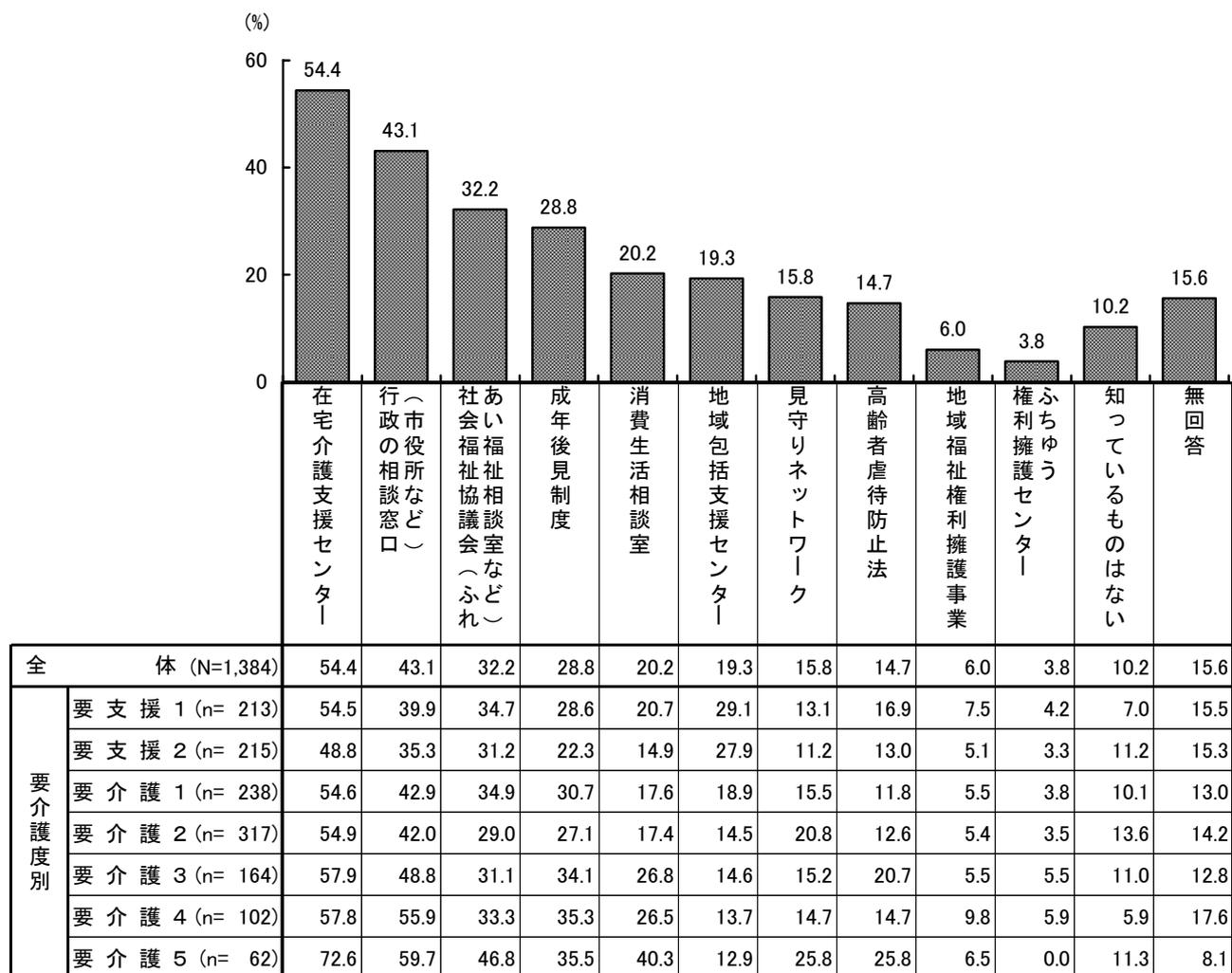
(6) 高齢者の権利擁護

権利擁護の制度や相談窓口の周知状況(問22)

高齢者の権利や生活を守るための制度や窓口として知っているものは、「在宅介護支援センター(54.4%)」が最も多く、「行政の相談窓口(市役所など)(43.1%)」、「社会福祉協議会(ふれあい福祉相談室)(32.2%)」、「成年後見制度(28.8%)」、「消費生活相談室(20.2%)」が続いている。「知っているものはない(10.2%)」は約1割である。

要介護度別にみると、周知度の高い在宅介護支援センター、行政の相談窓口、社会福祉協議会、成年後見制度などは、要介護度が重いほど「知っている」割合が増加している(図表2-6-1)。

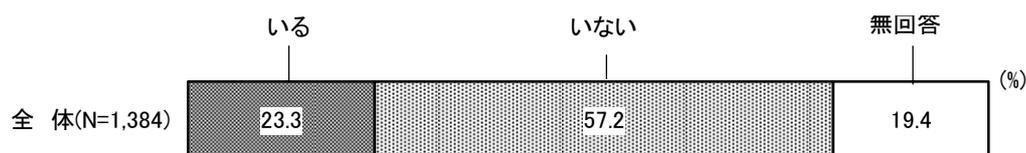
図表2-6-1 高齢者の権利や生活を守るための制度や窓口の周知
(全体、要介護度別：複数回答)



周囲で困っている人の有無（問23）

周囲で困っている人の有無については、「いる」が23.3%となっている（図表2-6-2）。前回調査と比べると「いる」が増加している（前は19.9%）。

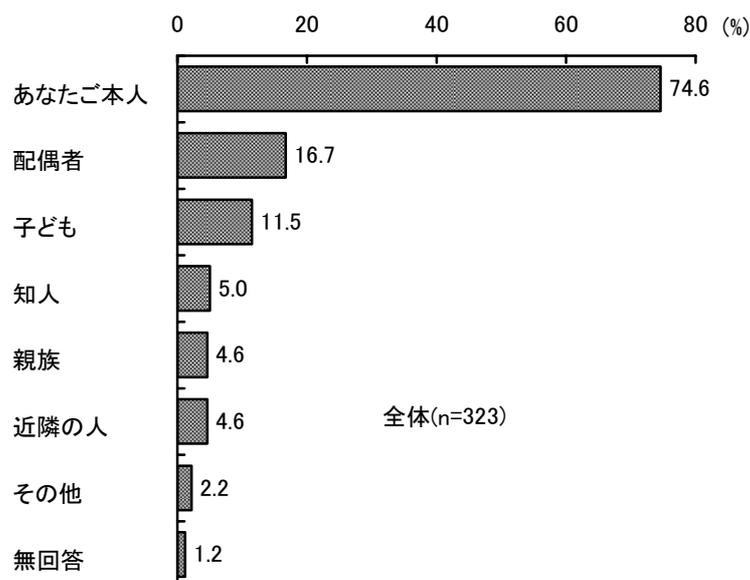
図表2-6-2 周囲で困っている人の有無（全体）



周囲で困っている人（問23-1）

周囲で困っている人が「いる」と回答した人に誰かをたずねたところ、「本人（74.6%）」が最も多く、「配偶者（16.7%）」、「子ども（11.5%）」が続いている（図表2-6-3）。前回調査と比べると「本人」が増加している（前は70.0%）。

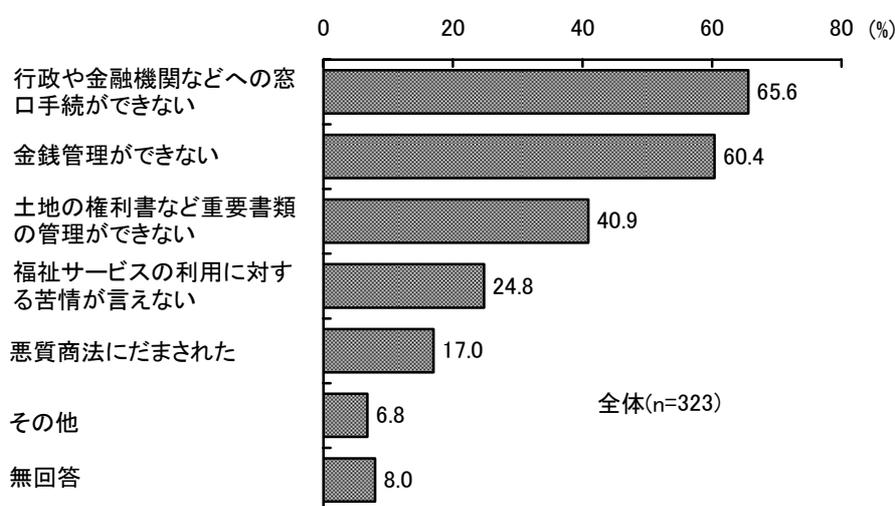
図表2-6-3 周囲で困っている人
 <周囲に困っている人がいると回答した人>（全体：複数回答）



周囲で困っている人の事例（問 23 - 2）

周囲で困っている人が「いる」と回答した人にどのような事例かたずねたところ、「行政や金融機関などへの窓口手続きができない（65.6%）」が最も多く、「金銭管理ができない（60.4%）」、「土地の権利書など重要書類の管理ができない（40.9%）」、「福祉サービスの利用に対する苦情が言えない（24.8%）」が続いている（図表 2 - 6 - 4）。

図表 2 - 6 - 4 周囲で困っている人の事例
 <周囲に困っている人がいると回答した人>（全体：複数回答）



災害時のための個人情報提供への考え方（問 24）

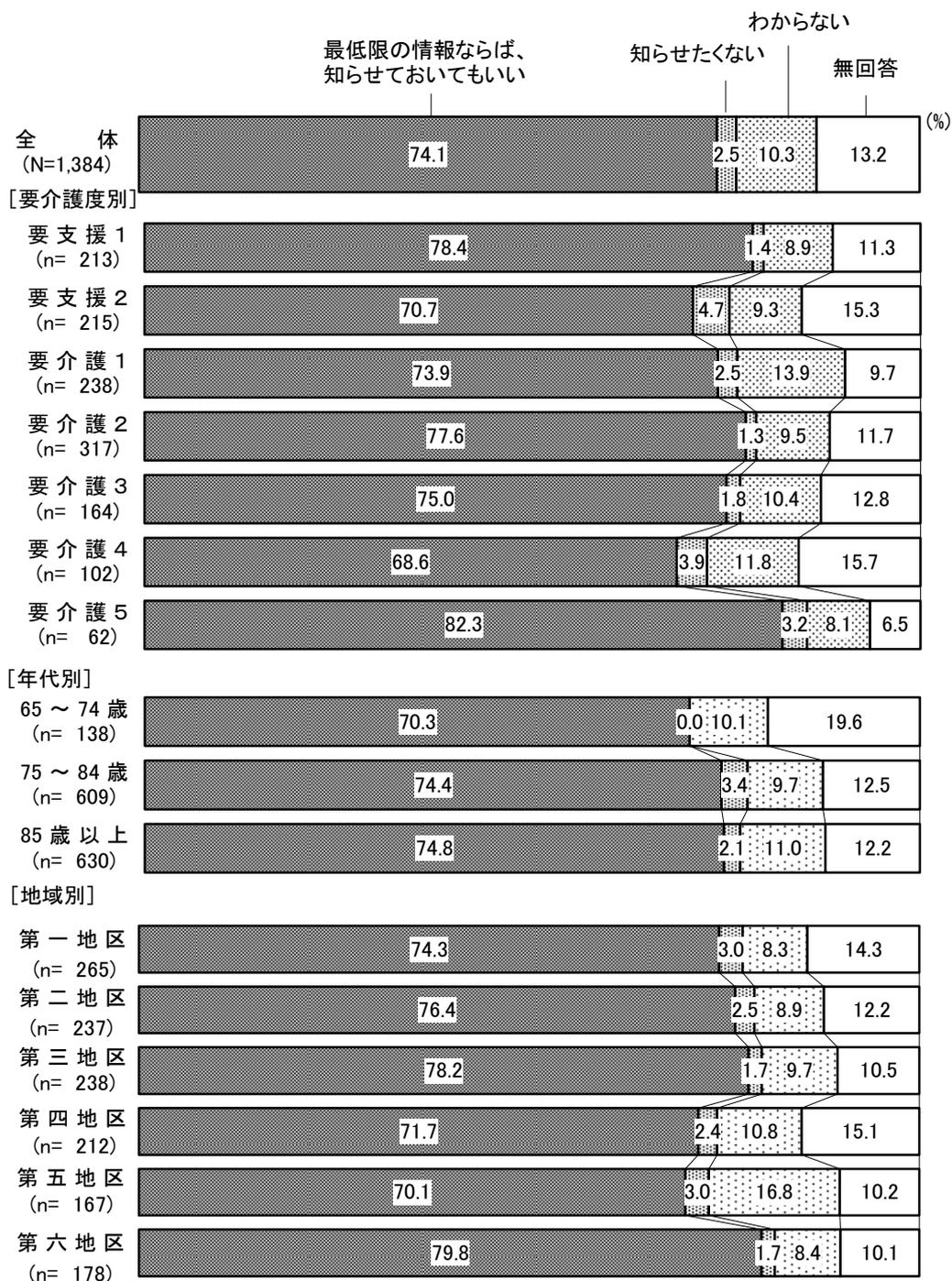
災害時に避難を助けたりするため、市役所、消防署、警察署や町内会・自治会へ、住所・氏名・連絡先などの個人情報を知らせておくことは「最低限の情報ならば、知らせておいてもいい（74.1%）」が最も多く7割以上である。

要介護度別にみると、要介護5では「最低限の情報ならば、知らせておいてもいい」（82.3%）が8割を超えている。

年齢別にみると、高齢の方が「最低限の情報ならば、知らせておいてもいい」の割合が若干高くなる。

地域別では、第四地区と第五地区で「最低限の情報ならば、知らせておいてもいい」の割合が平均より低い（図表 2 - 6 - 5）。

図表2 - 6 - 5 災害時のための個人情報提供への考え方
(全体、要介護度別、年代別、地域別)

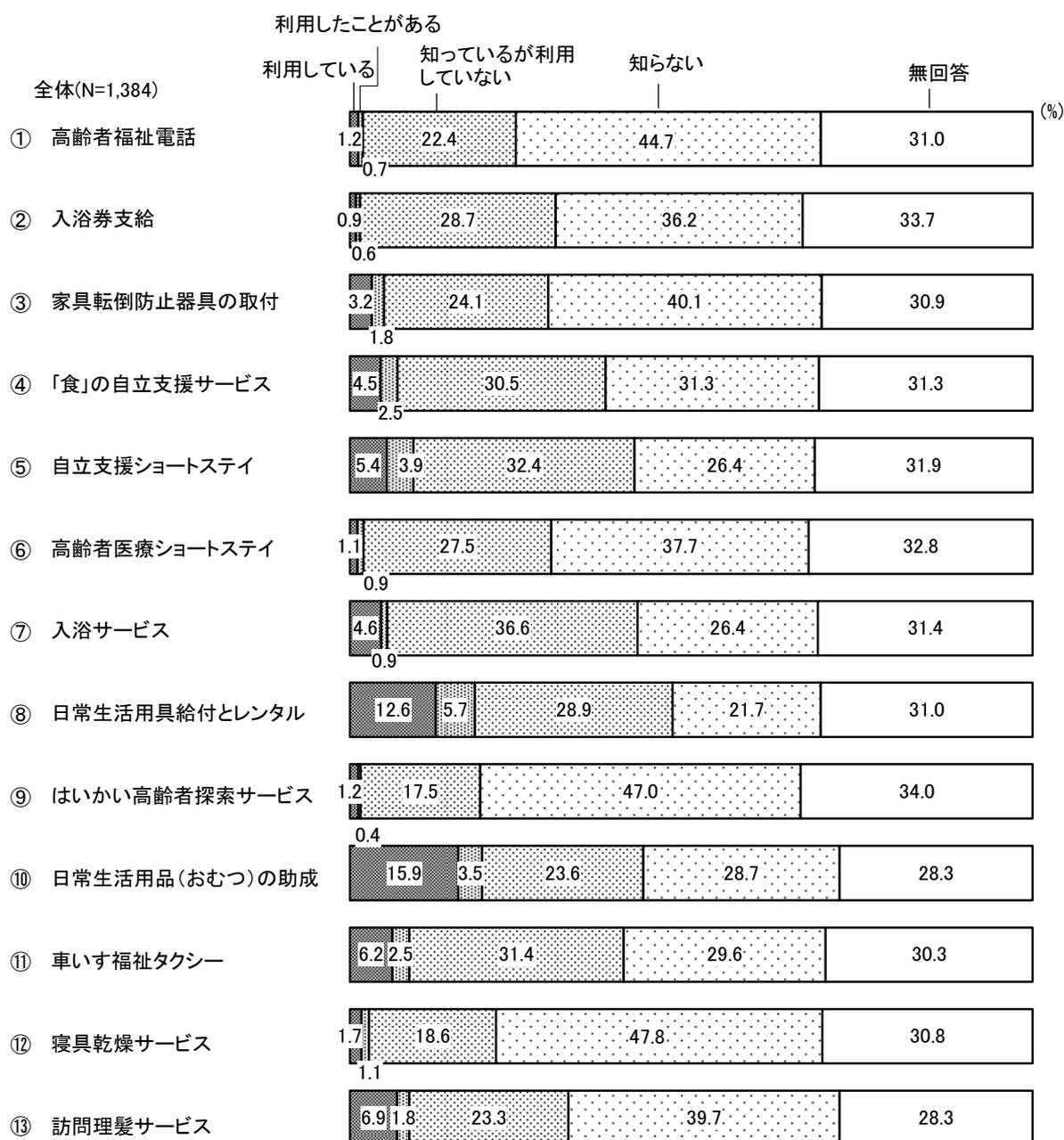


(7) 保健福祉サービス

保健福祉サービスの利用状況（問 25）

保健福祉サービスの利用については、「利用している」は、「日常生活用品（おむつ）の助成（15.9%）」が最も多く、「日常生活用具給付とレンタル（12.6%）」、「訪問理髪サービス（6.9%）」、「車いす福祉タクシー（6.2%）」が続いている（図表2-7-1）。

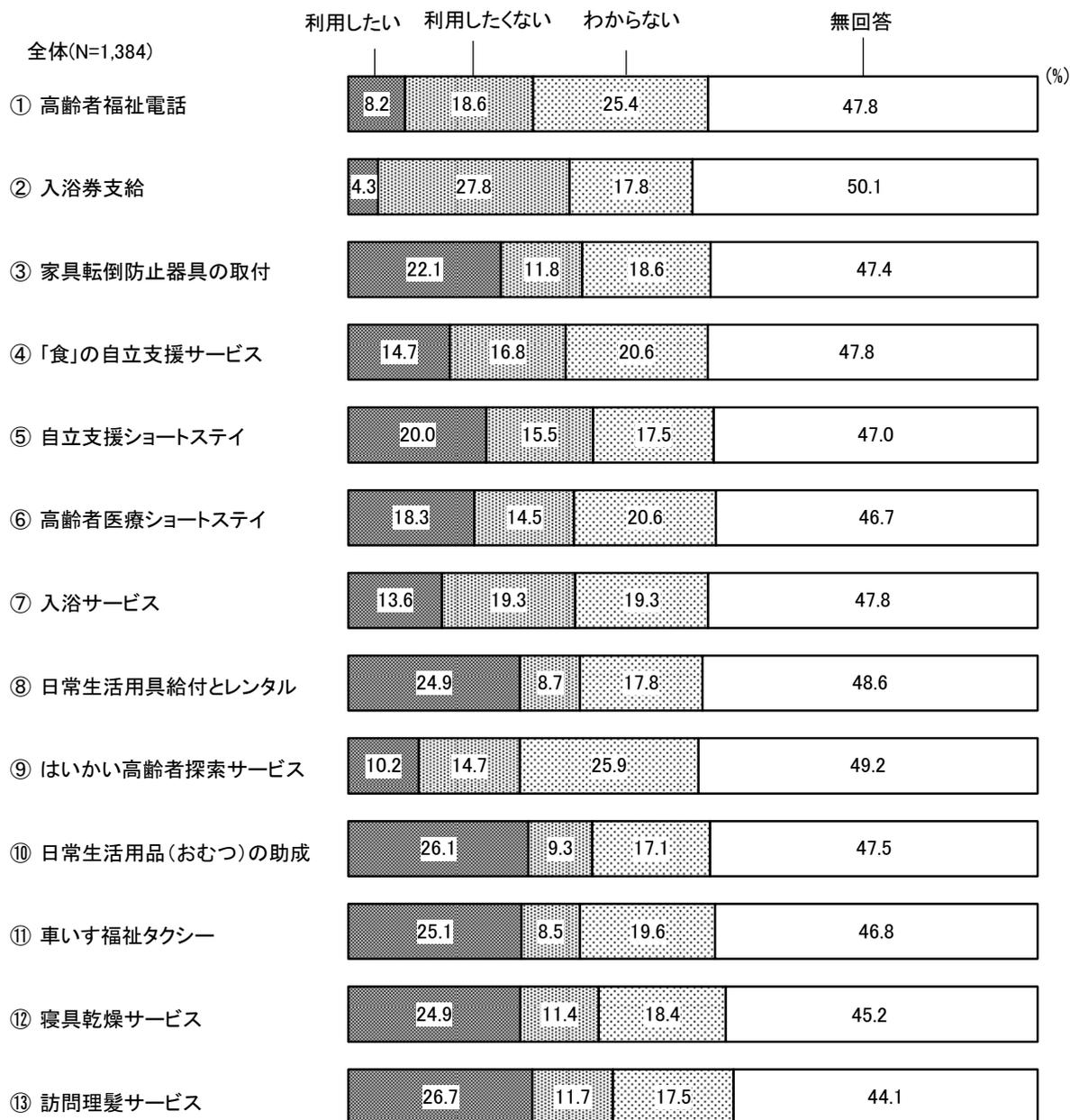
図表2-7-1 保健福祉サービスの利用状況（全体）



保健福祉サービスの利用意向（問 25 ）

利用意向は、「訪問理髪サービス（26.7%）」が最も多く、「日常生活用品（おむつ）の助成（26.1%）」、「車いす福祉タクシー（25.1%）」が続いている（図表2 - 7 - 2 ）

図表2 - 7 - 2 保健福祉サービスの利用意向（全体）



(8) 市への要望 (問 26)

保健福祉や介護保険について、市への意見・要望を自由記述形式でたずねたところ、全体で 168 件の回答があった。以下、主なものを掲載する。また、記入者が「本人」以外の場合は【 】内に家族と書かれている。

在宅サービスについて：32 件

- ・ 昼は介護の者が誰か付き添っているが、夜は帰ってしまうため、要介護者がひとりになってしまうので、その時にケアしてくれる手段を講じてくれればとても安心なのだが。(男性、85～89 歳、要支援 1)【家族】
- ・ 訪問介護は、いつも十分にさせていただく時間がなく残念。何とか 1 回に 2 時間半位やってくれないか。(男性、75～79 歳、要支援 1)
- ・ 生活援助サービスの内容が極めて厳しいので、柔軟にして欲しい。カーテンや椅子カバーの取り外しや洗濯などは、転倒のおそれがあるので、できるように緩めて欲しい。(女性、80～84 歳、要支援 1)
- ・ 利用限度内なら、規定以外のものの貸与も個々の要求に応じて認めて欲しい。お風呂に設置する椅子型シャワーの貸与など、本当に必要なサービスを認めて欲しい。本当にやって欲しいサービスに応用がきかず不便だ。(女性、90 歳以上、要介護 3)【家族】
- ・ 家事援助が本人の生活範囲に限定されるのは非常に不便。トイレ、風呂、台所の共用部分にも使えるようにして欲しい。(女性、70～74 歳、要介護 3)【家族】
- ・ 要支援 1 になって、介護予防サービスを受けていても全容が分からない。プールを利用したいのに稲城市のデイサービスまで通わなければならない。送迎があるものの朝 9 時迎え、午後 4 時送りでは、1 日がつぶれてしまう。府中でプールが使えるデイサービスを希望する。いきいきプラザは要支援 1 の人は使えない。(女性、65～69 歳、要支援 1)【家族】

介護サービスの変化 (平成 18 年 4 月以降) について：6 件

- ・ 4 月以降の介護保険サービスの変更により、自己負担が増した。介護度の見直しを希望する。(女性、85～89 歳、要支援 2)【家族】
- ・ 要介護 1 から要支援 2 に変化した。ヘルパーに頼めないことが多くなり、思いがけないことが頼めなくなった。例えば、雑誌は日用品を売っている店では買えるが、本屋では買えないということが、よく理解できない。他にもいろいろあるが、分かりやすく説明して欲しい。(女性、90～94 歳、要支援 2)
- ・ 今まで軽減してくれていたものが急に止められ、金銭的に大変になってきている。ショートステイを 1 週間お願いしたくても 4～5 日になるし、ヘルパーも今までの半分にしなければならぬなど、何のための介護保険かと思う。(女性、90～94 歳、要介護 4)【家族】

要介護認定について：7 件

- ・ 要介護 1 から要支援 2 に認定が変わったが、認定方法が分からない。脳梗塞の後遺症があ

るが、認知症と同じように一見では分かりづらいためか。デイサービスが唯一、外の人との接触の機会で、またリハビリでもあり、楽しみにしていたのに利用が制限された。精神的にうつになり、歩かないので足が弱り始めていて困っている。(女性、80~84歳、要支援2)【家族】

- ・ 前年より足の具合が悪く、杖を使用しても時々突然転ぶが、要介護1から要支援に認定が変更された。(女性、75~79歳、要支援2)
- ・ ひとりで風呂にも入れない、外にも出られない状態で、要介護2から、いきなり要支援2に変更されたのが不思議でならない。(女性、80~84歳、要支援2)【家族】

保険料等について：13件

- ・ 98歳。保険料が高すぎる。月3万8千円の年金で、3万円を介護サービス料金に払う。月8千円でどうやって生活するのか、自宅介護の人には補助金を出して欲しい。(女性、95歳以上、要介護4)【家族】
- ・ 介護保険サービスを受けたいが、年金暮らしのため、お金を払ってまでサービスは受けられない。(男性、95歳以上、要介護2)
- ・ 昨年突然、市民税を払わされることになった。大変苦しい。(女性、80~84歳、要介護1)

移送・送迎サービスについて：13件

- ・ 車いす福祉タクシーは、医療目的だけでなく使えるようにして欲しい。回数が少なすぎる。(女性、85~89歳、要介護3)【家族】
- ・ 介護タクシーを利用しているが、本人だけしか乗ってはいけなといわれている。介護している者が一緒に付き添えるようにして欲しい。(男性、75~79歳、要介護2)【家族】
- ・ 車いす福祉タクシー券で利用できる会社が2社しかなく、遠すぎて利用できない。タクシー券を24枚頂いても、タクシー会社から30分以内でないと利用できないので、近くの会社が使えるようにできるとよい。(女性、85~89歳、要介護4)【家族】

介護予防について：3件

- ・ 介護予防教室や介護予防健診などは介護保険サービスを受けている人は除外されているが、少しでもできることがあれば参加して、今より悪くなりたくないと思っているような人はどうすればよいのか。少し融通をきかせていただければ助かるのと思う。費用の点で二重になるのか。広報で答えて欲しい。(女性、75~79歳、要支援1)
- ・ いきいきプラザに、週1回程度でも、理学療法士を派遣し、その日に限り、要支援1クラスの人に自由に器具の利用をさせる、また、必要な器具を設置するなどの予防的・自主的リハビリが可能な体制を設けていただくとありがたい。大きな財政負担をしなくても、できるサービスはあると思う。例えば生涯学習センターのプールに、リハビリ時間を設けて、水中ウォーキングをするなど、是非、考えていただきたい。(男性、70~74歳、要支援1)

介護・福祉・医療についての要望：8件

- ・ひとり暮らしの老人の日常生活について、恒常的に見守るシステムや急な発病へのケアなどを充実して欲しい。(女性、85～89歳、要介護1)【家族】
- ・介護を受けている側になって、1日の実際の生活の流れを体験し、また、現場の人達の意見に耳をかたむけて、何が求められているのか、まず、考え直して欲しい。(女性、85～89歳、要介護3)【家族】
- ・介護保険のいろいろなことが、高齢者にとって煩雑すぎると思う。(女性、80～84歳、要介護1)

施設・住宅に対する要望：8件

- ・特別養護老人ホームに入居したいが、順番待ちで入れない。耐え切れずに8月末に有料老人ホームに入居したが、負担が大きい。(男性、80～84歳、要介護2)【家族】
- ・1部屋広い賃貸住宅で、母の介護をしたいので、家賃補助をして欲しい。(女性、85～89歳、要介護2)【家族】

ヘルパー、ケアマネジャーについて：10件

- ・事業所によってサービスの質が違う。サービスの向上、質の向上をお願いしたい。とても大変な仕事だと思うので、1人でも多く誠意を持って働く人を育てて欲しい。(女性、75～79歳、要介護3)【家族】
- ・サービス事業者、ケアマネジャー、ヘルパーは、全て介護保険が始まった頃のことはすっかり忘れ、利用者本位などありえないことになっていると感じている。料理の全くできないヘルパーを入れてきて、事業者は「惣菜を買ってください」と言う。時間はいつも無断で変わったり、早く帰ったり、プランにある掃除をしてくれなかったり、いろいろある。(女性、75～79歳、要介護3)【家族】
- ・ケアマネジャーが介護保険について詳しい知識を持って、本人、家族に教えてくれるように指導して欲しい。(女性、80～84歳、要介護2)【家族】

情報提供などについて：18件

- ・保健福祉で利用できるシステムが余り知られていない。もっと市民が利用できるようにPRして欲しい。(女性、85～89歳、要支援1)【家族】
- ・年1回くらいでも保健福祉や介護保険の状況を書面で知らせていただければありがたい。(女性、95歳以上、要介護5)【家族】
- ・要支援の更新手続きなど自分でするのか、期間などもよく分からない。ケアマネジャーの仕事内容やかかわり方もよく分からないので、市の福祉の分かりやすい情報があつたらよいと思う。(女性、75～79歳、要支援1)
- ・成年後見制度や遺言、相続などの情報、高齢者医療の情報、福祉の情報などが欲しい。(女性、85～89歳、要介護1)
- ・近所に気楽に集まって、おしゃべりしたり、遊んだり出かける所がないか、情報が欲しい。(男

性、65～69歳、要介護2)

まちづくりについて：3件

- ・ 私はバス停で5分くらい立っていると腰から足先まで痛くなり、立っているのが辛いので、腰掛がないときは、歩道にスーパーのビニール袋を敷いて座っている。けやき並木には腰掛があるので助かっている。国立のバス停にある真鍮の折りたたみ式の腰掛は場所も取らず良い方法と思う。(女性、85～89歳、要介護1)

アンケートについて：4件

- ・ ひとりでは調査の記入ができない。質問が長すぎ、字が小さすぎる。理解できる文章にして欲しい。(女性、80～84歳、要支援2)

行政への要望：13件

- ・ 困った時に、いろいろな面ですぐ対応できる機関を設置してもらいたい。(女性、75～79歳、要介護1)
- ・ 介護保険証、医療受給者証の更新で、旧保険証の返納は、市民健康保険証のように、近くの文化センターに返納できるようにすべきと思う。(男性、75～79歳、要支援1)
- ・ 手続きなど、もう少し簡単にしていれば助かる。(女性、80～84歳、要支援1)

将来への不安：2件

- ・ 現在、預金を取り崩して生活しているので、残金が無くなった時、いろいろな保険料などが払えなくなった時、どうするのか不安。(女性、85～89歳、要介護2)

満足・感謝：16件

- ・ 介護に困っている方の報道等を耳にするが、我が家の場合、市の窓口へ出向いて、親切な案内からスタートし、今現在、満足なサービスが受けられているので幸せと思う。(女性、75～79歳、介護度不明)【家族】

その他：12件

- ・ 私は75歳で足が痛く、85歳の主人は耳が聞こえなく、足も歩けないので、介護が大変。(女性、75～79歳、要支援2)

(9) 介護者の状況・意向

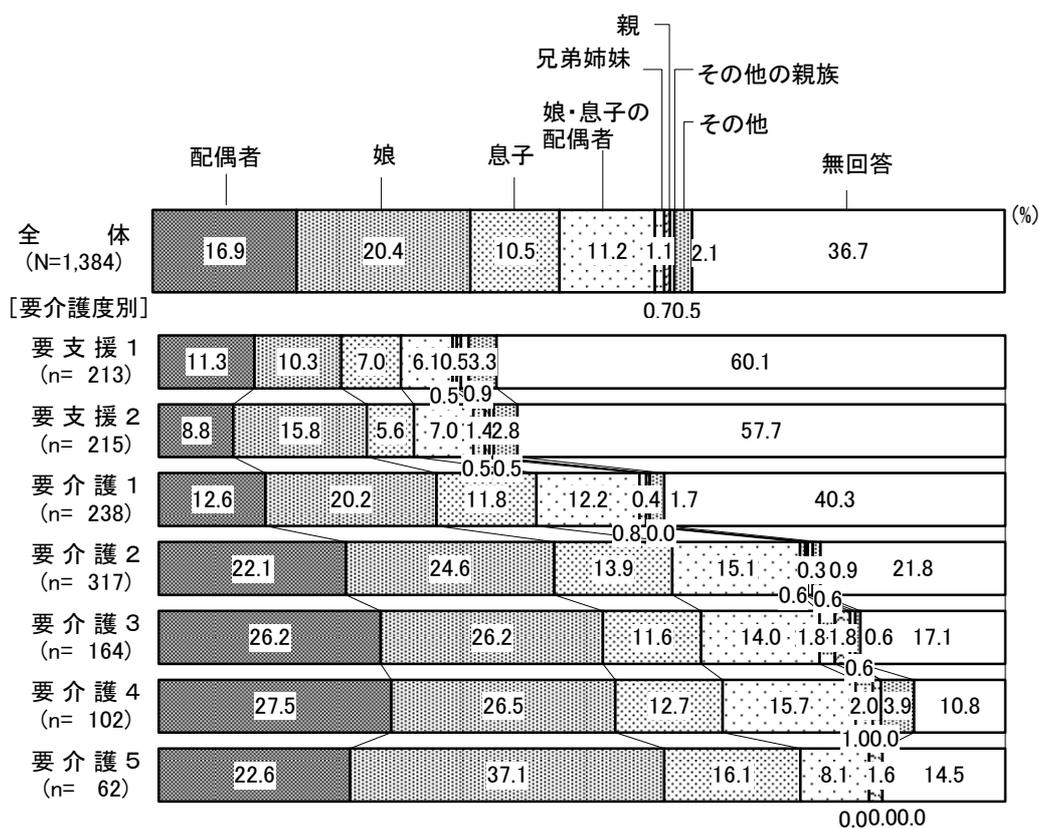
主な介護者 (問 27)

主な介護者は、「娘 (20.4%)」が最も多く、「配偶者 (16.9%)」、「娘・息子の配偶者 (11.2%)」、「息子 (10.5%)」が続いている。

要介護度別にみると、要介護度が重くなるにしたがい、娘、息子が多くなっている (図表 2-9-1)。

介護者の第1位は前回調査では「配偶者 (23.6%)」であったが、今回は「娘 (20.4%)」となっている。

図表 2-9-1 主な介護者 (全体、要介護度別)

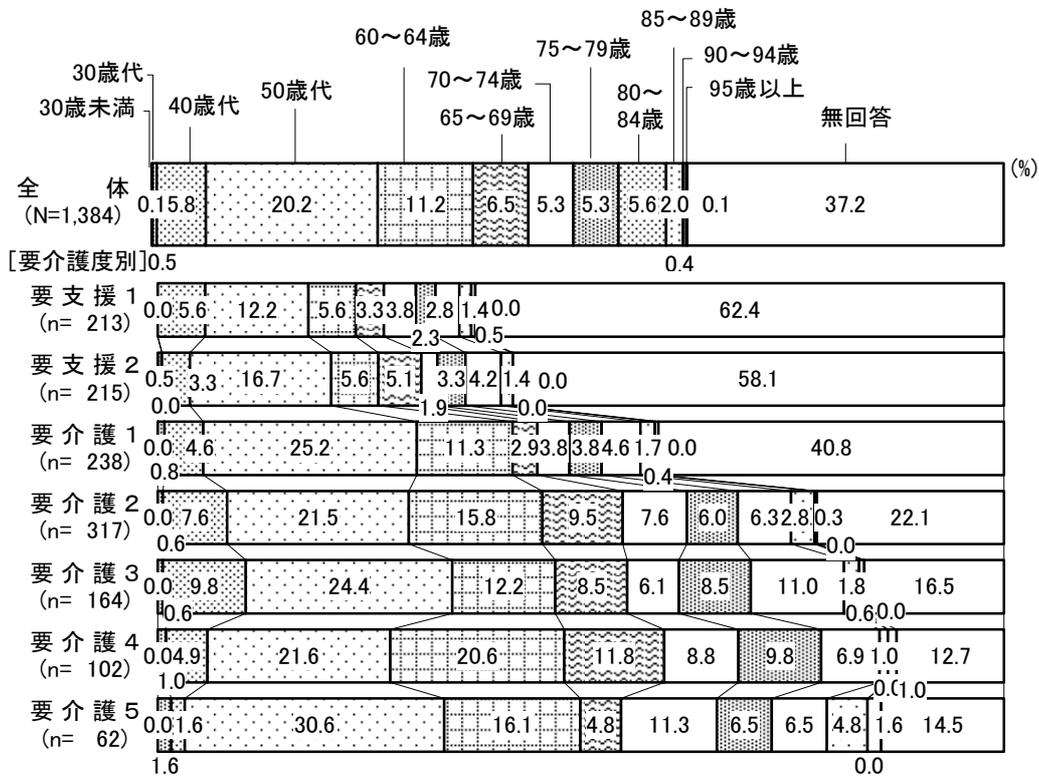


主な介護者の年齢（問 28）

主な介護者の年齢は、「50 歳代（20.2%）」が最も多く、「60～64 歳（11.2%）」、「65～69 歳（6.5%）」、「40 歳代（5.8%）」、「80～84 歳（5.6%）」が続いている。75 歳以上の後期高齢者が 13.4%で、1 割以上である。

要介護度別にみると、要介護 5 では「50 歳代」が 3 割と多い。要介護 3 では「80 歳代」が 1 割以上であるなど、重度の要介護者を高齢の家族が介護している状況もうかがわれる（図表 2 - 9 - 2 ）。

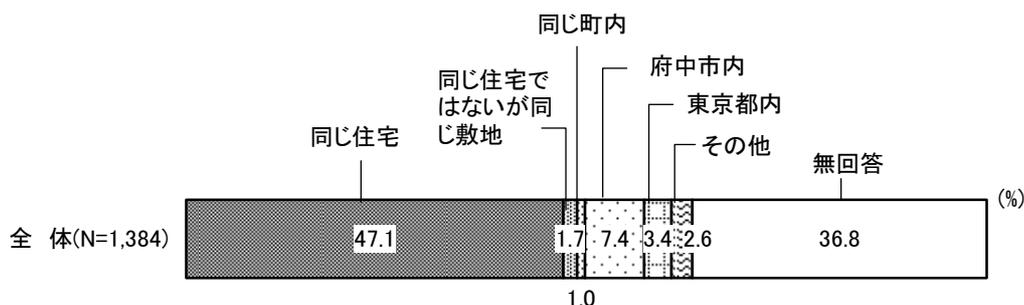
図表 2 - 9 - 2 主な介護者の年齢（全体、要介護度別）



主な介護者の居住地（問 29）

主な介護者の居住地は、「同じ住宅（47.1%）」が最も多く、「府中市内（7.4%）」、「東京都内（3.4%）」が続いている。「同じ住宅」、「同じ住宅ではないが同じ敷地」、「同じ町内」を合わせると、同居・隣居・近居が5割である（図表2-9-3）。

図表2-9-3 主な介護者の居住地（全体）

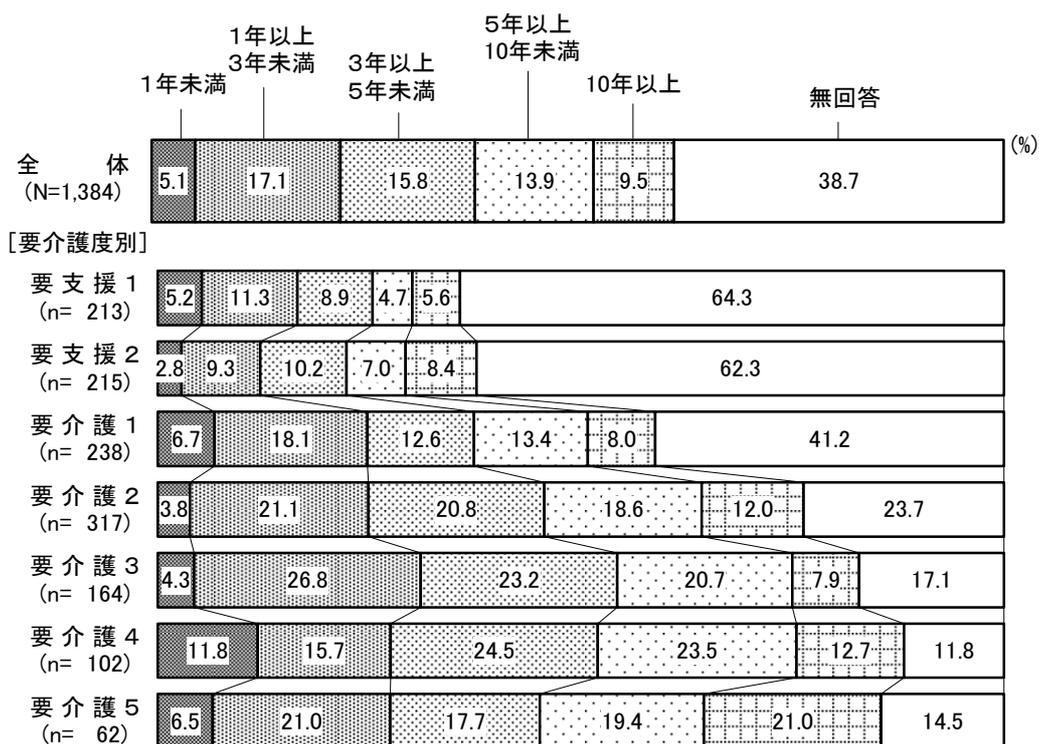


介護している期間（問 30）

介護している期間は、「1年以上3年未満（17.1%）」が最も多く、「3年以上5年未満（15.8%）」、「10年以上（13.9%）」が続いている。5年以上の長期の介護は2割以上である。

要介護度別にみると、要介護度が重くなるにしたがい、介護期間が長くなる傾向があり、要介護5では「10年以上」が2割以上となっている（図表2-9-4）。

図表2-9-4 介護している期間（全体、要介護度別）

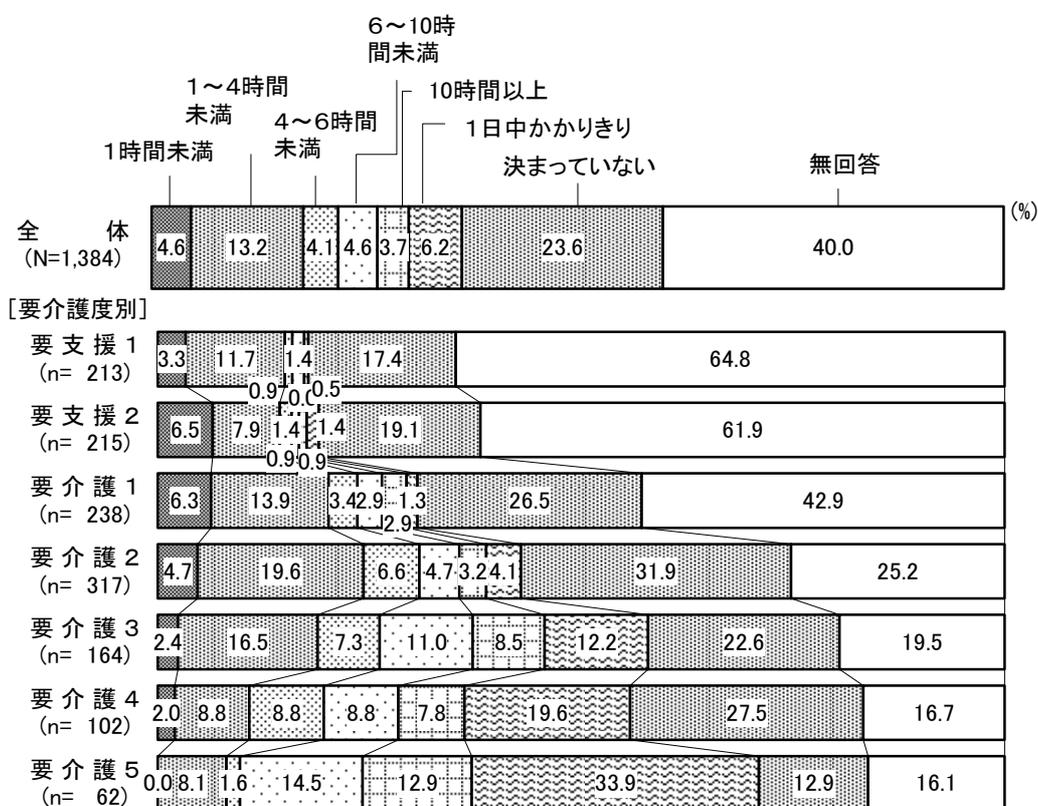


1日の介護時間（問31）

介護に関わっている1日の平均時間は、「決まっていない(23.6%)」が最も多く、「1～4時間未満(13.2%)」が続いている。「10時間以上(3.7%)～1日中かかりきり(6.2%)」の長時間介護は1割である。

要介護度別にみると、要介護度が重くなるにしたがい、「1日中かかりきり」や「10時間以上」の長時間介護が増加する。介護度5では「1日中かかりきり(33.9%)」が3割以上である(図表2-9-5)。

図表2-9-5 介護時間（全体、要介護度別）

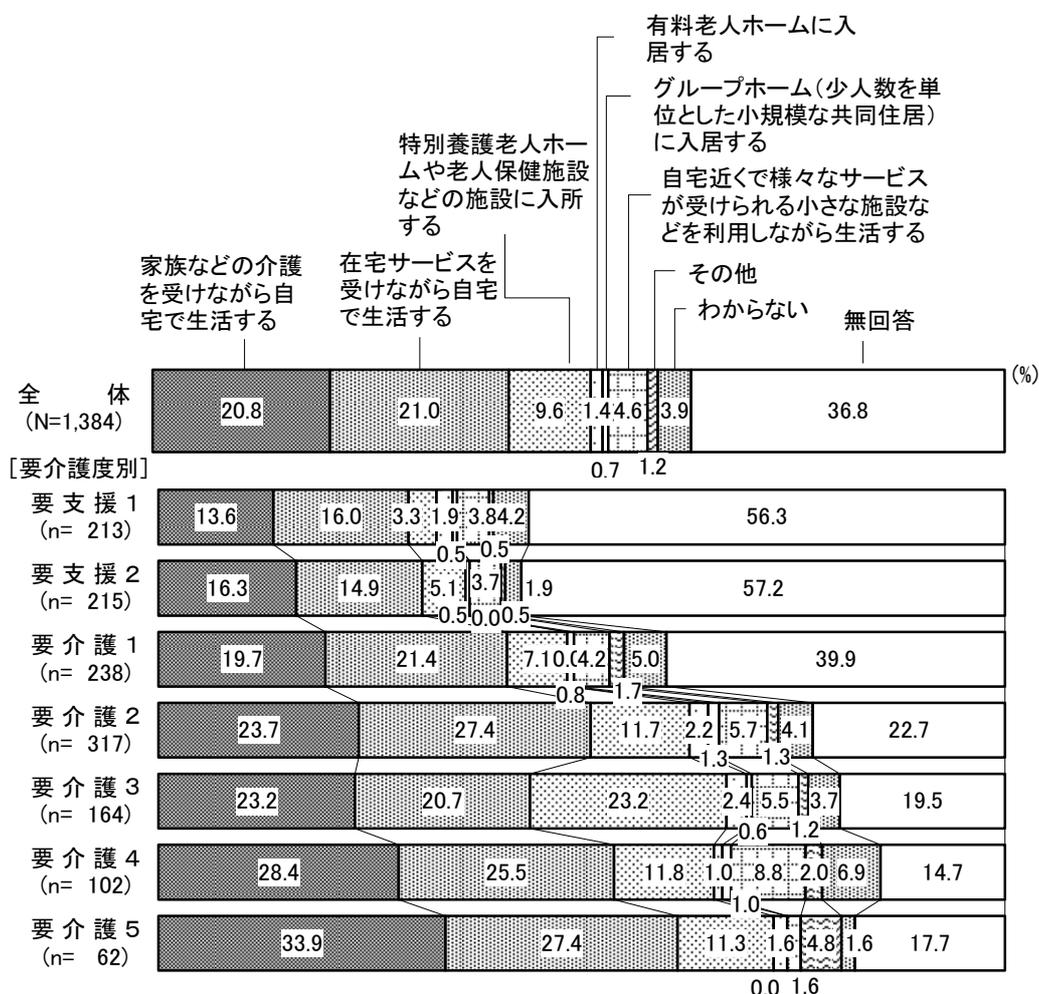


介護されている人の今後の生活の場所（問 32）

介護されている人が今後、生活するのに良い場所は、「在宅サービスを受けながら自宅で生活する（21.0%）」、「家族などの介護を受けながら自宅で生活する（20.8%）」を合わせると自宅希望が4割強である。「特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設に入所する」～「自宅近くで小さな施設などを利用しながら生活する」の施設希望は16.3%で、2割以下である。

要介護度別にみると、全体の上位2項目の「在宅サービスを受けながら自宅で生活する」と「家族などの介護を受けながら自宅で生活する」は、要介護度が重くなるにしたがって多くなる傾向がみえる。「特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設に入所する」は要介護3で最も多く、2割以上である（図表2-9-6）。

図表2-9-6 介護されている人の今後の生活の場所（全体、要介護度別）

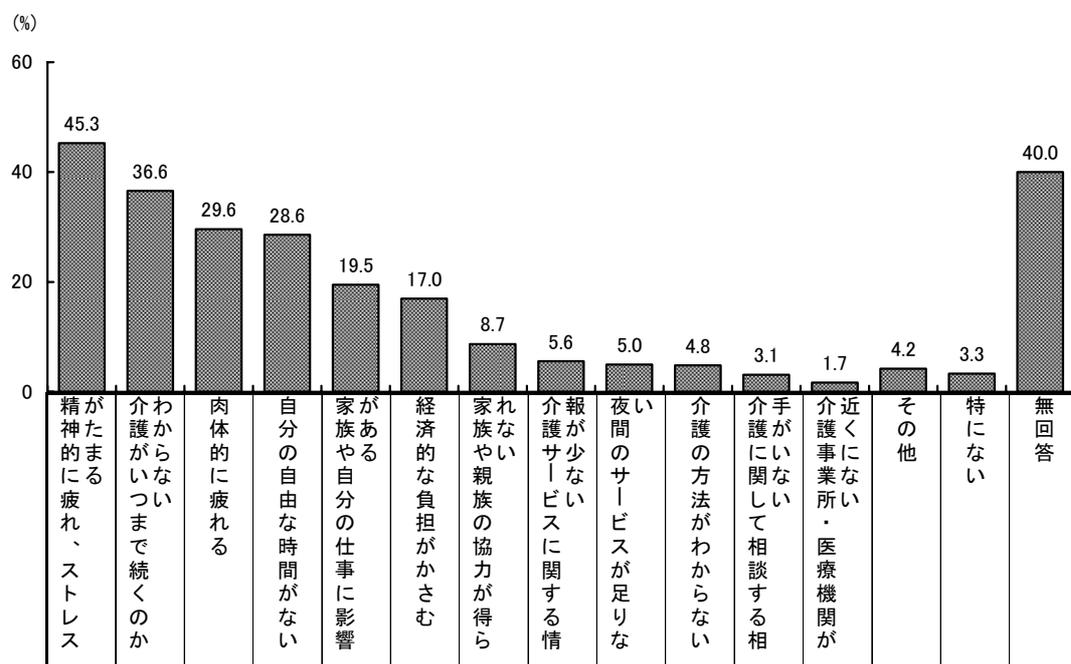


介護の問題点（問33）

介護の問題点は、「精神的に疲れ、ストレスがたまる（45.3%）」が最も多く、「介護がいつまで続くのかわからない（36.6%）」、「肉体的に疲れる（29.6%）」、「自分の自由な時間がない（28.6%）」が続いている。

要介護度別にみると、要介護度が重くなるほど、問題点が多くあげられている（図表2-9-7）。

図表2-9-7 介護の問題点（全体、要介護度別：複数回答）



全体 (N=1,384)		45.3	36.6	29.6	28.6	19.5	17.0	8.7	5.6	5.0	4.8	3.1	1.7	4.2	3.3	40.0
要介護度別	要支援1 (n= 213)	19.7	16.0	12.7	13.1	10.3	7.5	2.8	4.7	0.9	2.3	1.4	0.5	1.4	6.6	66.7
	要支援2 (n= 215)	25.1	18.6	14.4	11.6	8.8	6.0	4.2	2.8	2.3	1.9	0.9	0.5	3.3	4.7	60.0
	要介護1 (n= 238)	39.9	31.5	23.5	19.7	19.7	12.2	5.5	5.0	4.2	3.4	2.5	2.1	1.3	3.8	44.1
	要介護2 (n= 317)	60.3	45.4	37.9	35.6	23.7	18.3	11.7	8.2	4.4	5.7	3.5	3.5	6.6	1.6	25.2
	要介護3 (n= 164)	69.5	59.1	38.4	50.6	29.3	29.9	16.5	4.3	7.3	9.1	5.5	2.4	7.3	1.8	17.7
	要介護4 (n= 102)	69.6	64.7	54.9	52.9	29.4	32.4	12.7	10.8	10.8	9.8	6.9	1.0	8.8	0.0	16.7
要介護5 (n= 62)	64.5	51.6	61.3	58.1	30.6	41.9	19.4	6.5	19.4	6.5	6.5	1.6	1.6	3.2	16.1	

(10) 介護者の意見・市への要望等 (問 34)

介護者が感じている介護の問題、経済的負担、遠距離介護や呼び寄せ介護の問題、市への意見・要望・提案について、自由記述形式でたずねたところ、全体で 347 件の回答があった。以下、主なものを掲載する。

在宅サービスについて：40 件

- ・ デイサービスでは、多少の体の不都合があっても受け入れてもらいたい。高齢なのでどこかが悪くなっているのは当然と思う。例えば、体に湿疹ができたとか捻挫をしたときなど、すぐ、休んでくださいといわれるので、悩んでいる。(女性、80～84 歳、要介護 2)
- ・ 85 歳の母の足が硬直しているためストレッチャーが必要で、高齢者福祉タクシーを使うが、予約制で、急な時は使うことができない。民間を使ったこともあるが、その場合は 1 回 8～9 千円かかるので経済的に大変なので、福祉タクシーが急な場合にも使えるようにしていただきたい。(女性、85～89 歳、要介護 5)
- ・ 体の一部の麻痺は全体に影響があるものなので、マッサージを患部に限らず受けられるようにして欲しい。費用の問題が解決できればうれしい。(男性、75～79 歳、要介護 2)

認知症の介護：31 件

- ・ 母がアルツハイマーなのでグループホームへ入れたいが順番待ちなので、いつ入れるか分からないので困っている。(女性、80～84 歳、要介護 1)
- ・ 認知症の症状は 10 人いれば様々と思うが、具体的に、こんな時は、このようにしたらよいのではないかと、とのアドバイスをもらえる機会があれば家族としては助かる。ケアマネジャーに相談しても具体的なアドバイスがもらえない。(女性、75～79 歳、要介護 2)
- ・ デイサービス、ショートステイを利用しているが、認知症で目を離せない。また、トイレ介助も必要。ショートステイにあわせて休養、買い物・外出、庭の手入れを行っているが、介護者が風邪や頭痛などのとき、子育てサポートのようにすぐに頼める人や場所があるとありがたい。(女性、90～94 歳、要介護 3)

老々介護：38 件

- ・ 介護している自分の方が年上で隠れ脳梗塞を持っていると医者に言われている。何時だめになるのか分からないので心配。本人は何もできない。(男性、80～84 歳、要介護 3)
- ・ 主人 83 歳、要介護 4 で 1 日車椅子で、介護している妻は間もなく 80 歳になる。介護保険も限度まで使わせていただき、おむつの支給、介護タクシーもありがたく使わせていただきながら、体力も気力も低下してきて、腰を痛めているので、いつまで続けられるか不安な思い。(男性、80～84 歳、要介護 3)
- ・ 81 歳の夫が 79 歳の認知症の妻を介護。夜中に夫が体調を崩した場合どうしたらよいか不安。119 番してもマンションのドアにはチェーンがかけてあるので入れない。119 番できなければ一層困る。このような時はどうすればよいのか。(女性、75～79 歳、要介護 3)

- ・ 父は97歳、要支援1で、認知症の母の介護、食事の支度をしている。昼間はヘルパーが来てくれ、夜は息子とその妻と娘が交代でみている。父も97歳の高齢なので、せめて要支援2になればデイサービス、生活支援のサービスがもっと受けることができるので、認定要件に年齢を加味していただきたい。また、今後の母の介護の相談などの窓口があれば助かる。(男性、95歳以上、要支援1)

家族介護について：19件

- ・ 介護者の交流会を企画して欲しい。できれば、嫁、娘、兄弟として、それぞれ別々にして欲しい。立場によって随分と事情が違っているようなのだが、近所には余り話したくないこともあり、立場が同じであれば話も合うのではと思っている。介護に追われていて参加できない人も多いと思うが、少人数でも話せる時間があれば気がまぎれると思う。(女性、75~79歳、要介護3)
- ・ 介護体験談などを聞きたい。介護者の情報交換を望む。(女性、90~94歳、不明)
- ・ 介護保険サービスの種類が14もあること、保健福祉サービスが事業名として14もあることを知らなかった。介護は修羅場。若干の認知症があるため、つい暴言を吐いたりして、後で「言わなければよかった」と反省する毎日。介護の勉強をして行こうと思っている。(女性、90~94歳、要支援1)
- ・ 高齢者介護者慰労金が、財政難との理由で、最初にカットされたが、会社も辞め介護している身にはとても大きな収入だった。再考、願いたい。(女性、90~94歳、要介護5)
- ・ 要介護3の親を息子と娘でデイケアとショートステイを使って介護している。介護者が病気になる場合どうなるか、緊急時のステイ先があるか、もう少しデイケア、ショートステイが増やせると良い。ヘルパーも個人によって違うが、家事援助も余り考えないで行っている人もいるのでヘルパーの質の向上を考えて欲しい。介護の情報ももう少しあったらよい。市からの介護関係の手続き書類ももう少しまとめていただきたいと思う。(女性、90~94歳、要介護3)
- ・ いろいろサービスを受け、各所間の連絡もよく取って下さるので感謝している。勧められるサービスや配偶者の希望が、本人の意思に反している場合、説得に苦労している。サービスの具体的なイメージが本人に分からない場合や感情的な問題が障害となりスムーズに運ばないことが多いので困っている。(男性、75~79歳、要介護2)

呼び寄せ介護 / 遠距離介護：6件

- ・ 急に、いなかから府中市の自宅に引き取るようになったため、住宅の狭さなどからくるストレス、家族への負担も大きい。同居人がいると生活援助サービスが受けられないため、介護者への負担が非常に大きい。介護者も更年期障害のため苦しんでいるので、是非、身体介護だけでなく生活援助も受けられるよう改善していただきたい。(女性、80~84歳、要介護1)
- ・ 10か月前から呼び寄せ介護が始まり、一番困ったことが入浴だった。不慣れな環境での入浴は危険なので、デイサービスの入浴に期待していたが、初めて見学に行った施設は立派

だったが、いやな顔をされ、気が重くなった。その後の見学で、大丈夫と言われたところに週3回通所させていただき感謝している。施設は大きさをなく、こじんまりとした温かいところが増えることを望む。(女性、85~89歳、要介護2)

- ・ 夫婦共に勤務しているが実家から遠く、子どもも弱いので、やむを得ず85歳の母と別に暮らしているが、母が今倒れると我が家も成り立たなくなるので、心配している。現在の状態を保てるよう、もう少し介護の量を増やしていただけたらと念じている。(女性、85~89歳、介護度不明)
- ・ 介護している中、遠距離の実家の母親(85歳)が認知症となり、呼び寄せたくても住宅の問題、経済的なことで考慮中。自宅近くに施設があれば入所させて見守ってやれると思っている。(女性、85~89歳、要介護3)

介護保険、介護サービス・要介護認定について：28件

- ・ 以前は、ヘルパーが来て洗濯、掃除、話し相手をしてくれたが、受けられなくなった。デイケアに週2回通所しているが、それ以外の平日は、私が仕事から戻るまで、ひとりなので、とても心配。以前のようにヘルパーさんに来てもらえる制度にしていきたい。(女性、80~84歳、要介護2)
- ・ 介護の認定についての判定結果を具体的に示して欲しい。結果を郵送されても、家族は分かっているが本人が納得しない。文書で理由を書いて同封していただきたい。(女性、80~84歳、要介護1)
- ・ 今まで3回介護認定を受けているが、家族から見てもそれほど変化がないのに、要支援 要介護2 要介護1とそのつど違う認定結果をうけた。前回の認定も参考にしたいうえで、なるべく落差のない認定をお願いしたい。(女性、80~84歳、要介護1)
- ・ 介護の申請に手間がかかり期間も短いので1年間くらいみていただきたい。9月まで要介護1だったが今回の認定で要支援になり介護タクシーが利用できないためバス通院となり、以前より体調が思わしくなくベッドにいる時間が多くなった。もう少し介護者の立場に立って考えていただきたい。(女性、70~74歳、要支援1)
- ・ 84歳で、要介護1から要支援2に変更になったことによりデイサービスの回数が半分に減ってしまった。1人で家にいるのは不安であるため、自費で週1回通っているのが自己負担が多くなった。年々、歳をとって弱っているのに介護が軽くなるのは納得できない。(女性、80~84歳、要支援2)

経済的負担(介護保険料、利用料、交通費、家の修理等): 31件

- ・ もう少し安く利用できるとありがたい。保険料も安くして欲しい。別のところに住む娘も介護に協力してくれるので、家族の介護をもっと大事なことで世の中にアピールし、仕事をしている人も週1回は自分の親、配偶者の親に連絡をとり、優しい言葉をかける世の中にしたい。(女性、80~84歳、要介護2)
- ・ 最近、大きな病院での治療・通院が必要になった。医療費とタクシー代(1回約5,000円)が経済的に負担になる。控除対象になるのは分かっているが、市の方で割引券などを出し

てもらえたらありがたい。介護タクシーも本人のみで、家族は乗ることができない。介護者は病院への付き添いは時間もかなり負担となる。(女性、85～89歳、要介護1)

- ・ 本人の年金が年額40万円未満と非常に少ないのに、家族に納税者がいると介護保険料を年金1月分以上支払うことになり、医療費やタクシー代で消えてしまい、介護サービスの多くは受けられない。ひとり暮らしと比べると不公平に感じる。家族も現役中なら負担もできるが、年金世代であり、家族と同居していても年金額が非常に少ない高齢者にも目を向けて欲しい。(女性、歳以上、要介護2)
- ・ 介護を受けるにも全て金がかかるので、生活がギリギリで苦しい中では介護が受けられない。持家も30～40年も経てば修理にお金がかかる。少しの蓄えを崩していく生活にも限界がある。(女性、70～74歳、要介護2)

介護予防・リハビリ：3件

- ・ ある市では、要支援になる予備軍の時点で、訓練、イベントを提案し、結果的に介護にかかる総費用の削減につながっているとのこと。これを学んで欲しい。(女性、75～79歳、介護度不明)
- ・ 介護予防にピアノ等の楽器を与えて欲しい。音楽は脳の活性化に必要と思う。(女性、80～84歳、要支援1)

医療・保健について：5件

- ・ 一人で介護しているが必要なサポートは受けられるので、府中市には感謝している。導尿カテーテルを装着しているので、連休や年末年始に詰まったらどうしようと不安になる。かかりつけ医の先生に電話するのも申し訳ないと思えばストレスがたまる。連休中も24時間待機しているナースステーションがあれば心強い。(女性、85～89歳、要介護5)

施設・住宅について：20件

- ・ 現在、府中市でも特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設入所待ちが100～150人以上もあり、いつ入所できるか分からない状況と聞いている。待っている患者や介護者が待ち疲れ、さらに病人になり、結果的に要介護者を増やすことになりかねない状況となっている。若い時期より納入している介護保険料の有効利用と他市との比較で潤沢な市予算で、市内に特別養護老人ホームや老人保健施設等の施設を建設して欲しい。(女性、90～94歳、要介護3)
- ・ 精神病と糖尿病(インスリン注射が必要)を合併しているために入所できる施設がなく困っている。(女性、65～69歳、要介護2)

ヘルパー、ケアマネジャーなどについて：21件

- ・ 良い担当者にめぐり会えたと思っている。介護する人、される人、そのコーディネーターをして下さる三者が、うまく行くと暮らしやすいと思っている。(女性、80～84歳、要支援2)

- ・ 介護される側の残っている能力を最大限生かす援助に目を向けて欲しい。例えば、洗濯物を一緒にたたむなど。(男性、90～94歳、要介護2)
- ・ 自由にヘルパーの派遣先を変えられない。ヘルパーの中には虐待に近いような介護をする人、また、湿疹の薬を塗ってくれない人もいる。掃除が頼めなくなって介護に負担を感じるようになり、介護の相談にのってくれる人もいない。(男性、85～89歳、要介護5)
- ・ デイサービスを受けているが、家族が言いたいことがあっても、デイサービスのスタッフに直接言えないのは困る。ケアマネジャーに通さなければならず、急なときは休んでいて伝えられないことや言ったことがきちんとデイサービスの方に伝わっていないこともある。(男性、85～89歳、要介護2)

相談窓口・情報提供：13件

- ・ 家族のいる人は家族に高齢者支援課に相談に行ってもらえるが、ひとり暮らしの人も多い。地域では誰が相談相手になってくださるのか、町名別に担当者の氏名を教えて欲しい。(男性、85～89歳、要介護2)
- ・ どんな時間でも、何かがおきた時に電話等で適切なアドバイスをしてくれる場所があると良い。(女性、85～89歳、要介護2)
- ・ 息子が市外に暮らしている。このまま弱って家事ができなくなったら訪問介護だけでは無理と思う。どこか施設にお世話にならなければならないと思うと、今のうちに見学して自分にあった所を調べておくことが必要と思う。その面での情報提供をお願いしたい。(女性、45～79歳、要介護2)
- ・ いろいろなサービスがあることを、このアンケートで初めて知ることができた。できれば70歳、80歳の高齢者に、「こんなサービスがありますよ」というパンフレットを送ってくれたらよいと思う。本人は知らなくてもよいが、介護する人には必要と思う。(女性、85～89歳、要介護3)

災害時対策・まちづくり：3件

- ・ 災害時はどのようにしたらよいのか、私の町会では一切分からない。(男性、80～84歳、要介護4)
- ・ 災害時の要援護者対策は？介護サービス利用者、ひとり暮らし、日中一人の高齢者などは災害が起きた場合は一人での避難は不可能と思う。援護方法を至急マニュアル化し、関係者に周知して欲しい。最終決定される前で、進捗状況でも良いので、市報に載せていただくと、高齢者も周囲の者も少し安心できる。(女性、80～84歳、要介護2)

アンケートについて：23件

- ・ アンケートの封筒の宛名本人が記入となっているが、本人は読解力も衰えているので、質問が難しすぎると思う。(女性、90～94歳、要介護2)
- ・ アンケートは、認知症の人など、明日どのような状態になるのか分からないので、「今後・・・」、「これから・・・」ではなく、「・・・の状態になったら、どのようなサービス

を利用したいか」という質問にした方がよい。認知症の介護は本当に大変なので、介護する人にも手を差し伸べるようお願いしたい。(女性、90～94歳、要介護2)

- ・ 勉強不足で理解していない制度の内容等が多くあった。アンケートを参考にしたいと思う。(男性、90～94歳、要介護3)

行政への要望：13件

- ・ 介護に関しての用語がむずかしくて理解しにくい。例えば、訪問介護の生活援助主体と身体介護主体の違い、デイサービスとデイケアの違い、短期入所生活介護と短期入所療養介護の違いなど、聞いたことのない言葉が多いのでよろしくようお願いしたい。(男性、80～84歳、要介護3)
- ・ 市役所から届くいろいろな書類は、分かりやすく大きな字でお願いしたい。(男性、75～79歳、要支援1)
- ・ 市役所は事業所の質の改善にもっと力を注ぐべきと思う。利用者より事業者の立場に立った物言が多いと思う。(女性、80～84歳、要介護2)

将来への不安：7件

- ・ いつまで自分(介護者)が元気でいられるのか、それが心配している。私が倒れたら母も家族も共倒れになるおそれがある。(女性、85～89歳、要介護5)
- ・ 現在は家族で介護しているが、この先、介護者の健康状態が変わったり、本人の病状が進んだ時のことを考えると不安。(女性、80～84歳、要介護3)
- ・ 将来、低所得の老人世帯が増加し、重労働の介護スタッフが不足するのは明白なので、長期的な対策が必要と思う。市に対しては、生活の場に密着した介護と経済的サポートを期待する。(女性、85～89歳、要介護3)

満足・感謝：22件

- ・ 現在、デイサービスを利用している。週2日、とても楽しみにしている。職員が常に親切で声をかけてくださり、昼食もバランスよく工夫されていて安心している。サービス以外の日でも送迎車に行きあうと、止まって声をかけて下さるので本当に見守られているようで感謝している。(女性、80～84歳、要介護1)

その他：24件

- ・ みどりのほこをなくさないで欲しい。ひとり暮らしの老人にとって、決められた時間・場所に、ゴミを出すことは、特に足が不自由な私にとっては不可能だ。みどりのほこがあるからこそ、ヘルパーさんが来たときにゴミ捨てを頼める。(女性、85～89歳、要介護1)
- ・ 93歳とはいえ、母は元気なので今のところ要望はない。これから増えていくとは思いますが、その時はよろしくようお願いしたい。(女性、90～94歳、要支援2)